





參考保元物語卷第二目錄

義朝白河殿夜討事

白河殿攻落事

新院左府御没落事

新院御出家事

朝敵宿所燒拂事

關白殿歸復本官事

左府薨逝并大相國忠實御歎事

重成奉敕奉守護新院事



謀反人各召捕事

重仁親王御出家事

為義降參事

謀反人被誅事

為義最期事

義朝弟被誅事

白河殿夜討事

常陽水戸府

著軒内藤貞顯仲微甫

參考保元物語卷第二



常陽水戸府

魯齋今井弘濟將興甫 考訂

義朝白河殿夜討事

自此至重成奉教奉守護
新院段鎌倉本闕此間稱

諸本者鎌倉
本不與焉

白河殿ニ八角トモ知レ召サリレカハ左大臣殿

武者所ノ親久半井本
作近久ヲ召レテ内裏ノ様見テ參

レト仰ケレハ親久即馳歸官軍既ニ寄候ト申モ

果子ハ先陣既ニ馳來ル

○京師本杉原本半井本並云。親久ヲ召。キツト窺
 テ參レトテ。御厩ノ御馬ヲ賜フ。親久鞍置ニ及
 ハス乘テ出。即馳歸。官軍向候御厩以下。半井本
 不載。而云近久馳
 歸。兵共馬ニ乘。義朝只今半嬾カケ。黒
 馬ニ黒鞍置。手打カケテ向候。云云。
 又ニ。西ノ河原ニ時ヲ作ル事三箇度也。半井本
 無三箇
 度。爲朝ハ能申ケルモノヲト萬人申合。云云。
 其時鎮西ハ郎申ケルハ。爲朝ガ千々ヒ申ツルハ。
 爰候爰候ト怒リケレトモ力及ハス。杉原本云。左
 府爲朝ヲ召
 テ。敵既ニ寄タリ。罷向テ防ヘシトテ。云云。爲朝ヲ勇センタメニヤ。俄

ニ除目行ハレテ。安弘藏人タルヘキ由仰ケリ。京師
 本杉原本藏人上無安弘字。半井本。安弘上。有爲朝
 字。按新院召爲義段。半井本既載安弘補藏人。今重
 出。未知。八郎是ハ何ト云事ソ。敵既ニ寄來ルニ方
 孰是。方ノ手分ヲユソセラレニスレ。只今ノ除目物忽
 也。人々ハ何ニモ成給ヘ。爲朝ハ今日ノ藏人トヨ
 ハレテモ何カセシ。只元ノ鎮西ハ郎ニテ候ハシ
 トソ申ケル。此。上ハ郎語。京師杉原本半井三本不載。
 京師本杉原本唯云。ハ郎物サワカニ
ノ除目ヤトツフヤクク。去程ニ下野守義朝ハ。二
 大炊御門ヘ向フ。云々。
 條ヲ東ヘ發向ス。安藝守清盛モ同ク續テ寄ケル

カ。明レハ十一日東塞り成ウヘ。朝日ニ向テ弓引
 ニ事恐有トテ。三條ヘ打下リ。河原ヲ馳渡シテ。東
 ノ堤ヲ上リニ。北ヘ向テツ歩セケル。本、書堤、下、有、
 脱字。今依、異、
 本補之。十一日云々至此。京師本。杉原本。本出。下野守
 于此。下白川殿攻落段。為義朝所為。可并見。
 八大炊御門河原ニ。前ニ馬ノ懸場ヲ殘シテ河ヨ
 リ西ニ。東カシラニヒカヘタリ。半井本云。義朝ハ
 大炊御門河原ニ。
 川ヨリ西ニ向テ控ヘタリ。家成中納言ノ宿所ノ
 前ニモ少々者一モ控ヘタリ云々。下野守以下至
 此。京師本。新院ノ御所ニモ敵既ニ西南ノ河原ニ
 杉原本無。新院ノ御所ニモ敵既ニ西南ノ河原ニ
 鯨波ヲ作テ攻來レハ。為義以下ノ武士。各固タル

門ケヨリ懸出ケリ。判官カ手ニハ。四郎左衛門頼
 賢ト。八郎為朝ト。先陣ヲ爭テ。既ニ珍事ニ及ハシ
 トス。半井本云。為義子共六人先陣ヲ爭ケル云々。頼賢思ヒケルハ。今子
 共ノ中ニハ我コソ兄ナレハ。今日ノ先陣ヲハ誰
 カハ懸ント云。為朝ハ又恐ラクハ弓矢取テモ打
 物取テモ我コソアラメ。其上判官モ。軍ノ奉行ヲ
 仕ラセラルハ上ハ。我コソアラメト論シケルカ。
 暫思案シテ。兄達ヲモ蔑ニスルエ世者トテ。親ニ
 不孝セラレシカ。適勘當赦サレタル身ノ。父ノ前

ニテ兄ト先ヲ論セシ事。惡カリナント思ヒケ也
ハ。半井本云。為朝打寄テ申ケルハ。和殿原論ニ給
ヘキナレトモ。疾ケモサキカケ給ヘ。但所詮
弱リ給ハシトモ。為朝候ヘハ懸合奉ヲ云々。所詮
誰ケモ懸サセ給ヘ。強カラシ所ヲハ。幾度モ承テ
支奉ラントソ申ケル。又恐クハ...

○京師本杉原本竝云。判官ノ子共我先ヲ懸ント
諍ケレハ。為朝打寄テ。何事ヲ御論候ヤラン。合
戰ノ場ニハ。兄弟ト云差別有ヘカラス。只器量
ニ依テ先ヲ懸ルニテ候ヘハ。某先陣仕テ見參

又。上七者ト云沙汰ノ候ナレハ。論ニ申テモ無
益也。但敵ノ強ク候ハシ所ヲハ。幾度モ為朝ヲ
向ラレテ御覽候ヘトテ引退云々。此下頼賢出
戰京師本杉

原本
不載

四郎左衛門是ヲ聞モトカメス。半井本云先陣ヲ
兵ヲ前後左右ニ立。門ヲ出。川ヲ隔テ。西ニ向テ申
ケルハ。西ヨリ寄ルハ。誰カ手ノ者ヲ。カク申ハ云
云。則西ノ川原ヘ出向。緋村濃ノ直垂ニ。月數ト云
鎧ノ朽葉色ノ唐綾ニテ威タルヲ著。二十四差又

ル大中黒ノ矢頭高ニ負^{オヒ}ナシ。重藤ノ弓真中取テ。月毛ナル馬ニ鏡鞍置テノ乗タリケル。大炊御門ヲ西ヘ向テ防ケルカ。爰ヲ寄ルハ源氏カ平家カ名乗レ聞シ。角申ハ六條判官爲義カ四男前左衛門尉頼賢トソ名乗ケル。河向ニ答テ云。下野守殿ノ郎等相摸國住人。首藤刑部丞俊通子息瀧口俊綱。前陣ヲ承テ候ト申セハ。偕ハ一家ノ郎等コサシテ。汝ヲ射ルニアラス。大將軍ヲ射ルナリトテ。川越ニ矢ニツ放ツ。夜中ナレハ誰トハ知ラマ

矢面ニ進タル者二騎射落サレヌ。四郎左衛門モ内^{ウチ}堀ヲ射サセテ引退。下野守ハ矢合ニ郎等ヲ射サセテ安カラス思ハレケレハ。云々大將軍ヲ射半井本云。俊通嫡子俊綱ト名乗。サテハ汝ヲ射ルニ非ス。大將軍ヲ射ルニヌソアレトテ。西ノ河原ヘ馳渡リ。大勢ノ中ヘソ懸入ケル。手取ニセシトシケレトモ。手ニモ懸ラス馳廻リケリ。義朝カ兵二騎進出テ戰。頼賢ヲ射レトモ矢モアタラス。頼賢矢ツキハヤニテ一二ノ矢ヲ放

ツ。目、前ニ。二人ハ射落シテ。東ノ川原ヘ引テ出
ス。義朝是ヲ見テ安カラストテ。云々。

既ニ懸ニトシ給ヘハ。鎌田次郎正清（多）繼ニ取附テ。
爰ハ大將軍ノ懸サセ給フ所ニテ候ハス。千騎カ
百騎百騎カ十騎ニ成テコソ打モ出ツセ給ハメ
ト申ケレトモ。猶懸ニトシ給フ間。歩立ノ兵八十
餘人アリケルヲ招寄テ。此由ヲ云合。大將軍ヲ守
護セサセ。正清馬ニ打乗テ。真先ニコソ進ケレ。
本無正清馬以下句。賴賢出戰至此。京師本杉原本
不載而正清叩馬諫義朝一節出於下段義朝為朝

防戰條。安藝守ハ二條川原ノ東堤ノ西ニ向テ控
ヘタリ。半井本云。二條河原ノ東堤ノ西ノハタ
北ヘ向テノ控ヘタル。三條ヲ河原一打出。
解連ニ東河原ニ打渡テ堤ヲ上リニ寄ケテ其勢ノ
ル云々。此下京師本杉原本有異。別出于下。其勢ノ
中ヨリ五十騎許先陣ニ進テ押寄タリ。爰ヲ固メ
給フハ誰人ノ名乗セ給ヘ。角申ハ安藝守殿ノ即
等ニ。伊勢國住人故市伊藤武者景綱。同伊藤五。伊
藤六トソ名乗ケル。ハ即是ヲ聞汝カ主ノ清盛ヲ
又ニ。アハ又敵ト思フテリ。平家ハ栢原天皇桓武
帝
ノ御末ナレトモ。時代久クケリ下レリ。源氏ハ誰

カハシラス。清和天皇ヨリ爲朝マテハ九代也。六
 孫王ヨリ七代八幡殿ノ孫。六條判官爲義カ八男。
 鎮西ハ即爲朝マ。景綱ナラハ引退ケトソ宣ケル。
 景綱昔ヨリ源平兩家天下ノ武將トシテ。違敕ノ
 輩ヲ討ニ。兩家即等大將ヲ射ル事互ニ是アリ。同
 即等ナカラ公家ニモ知ラレ進ラセタル身也。其
 故ハ伊勢國鈴鹿山ノ強盜ノ張本。小野七郎ヲ搦
 テ。副將軍ノ宣旨ヲ蒙シ景綱ソカシ。下鴨ノ射ル
 矢。立カ立ヌカ御覽セヨトテ。能引テ射タルトモ。

半井本云。御曹司ノ練鐔ノ太刀ノモヨセニ
 射留タル。五十餘騎カ放ツ矢ハ。一ツモ敵ニ立サ
 リケリ。爲朝大爲朝是ヲ事トモセス。アハ又敵ト
 ニ笑テ云々。汝カ詞ノ艶キニ。矢一ツ賜ハラシ受テ
 思ヘトモ。汝カ詞ノ艶キニ。矢一ツ賜ハラシ受テ
 見ヨ。且ハ今生ノ面目。又ハ後生ノ思出ニモセヨ
 トテ。三年竹ノ節近ナルヲ少シ押磨テ。山鳥ノ尾
 ヲ以テ作タルニ。七寸五分ノ丸根ノ篋中過テ篋
 代ノアルヲ打クハセ。暫持テヒヤウト射ル。半井本云。
 今生後世ノ名聞ニモセヨトテ。真先ニ進ナル伊
 サキ細ノ中差能引テ放ツ云々。藤六カ半井本云。當年十七。死生不知ノ兵也。藤六カ
 藤六カ半井本云。當年十七。死生不知ノ兵也。藤六カ

長生傳七卷

弓持鹿毛ナル馬ニ胸板カケス射徹シ餘ル矢カ。
目鞍置テ乗云々。

伊藤五カ射向ノ袖ニ裏返テソ立タリケル六郎

ハ矢場ニ落テ死ニケリ伊藤五此矢ヲ折カケテ。

大將軍ノ前ニ參テ八郎御曹司ノ矢御覽候ヘ凡

夫ノ所爲トモ覺候ハス六郎既ニ死候又。半井本云又忠

清手負テ候是ハ伊藤六カ胸板ヲ射通シテ某カ
射向ノ袖ニ裏カイテ候カ、ル弓勢コクイニ又

見候ハト申セハ安藝守ヲ始テ此矢ヲ見ル兵共
子云々。

皆舌ヲ振テソ恐ケル景綱申ケルハ。景綱半井本作忠清彼

先祖八幡殿後三年ノ合戰ノ時出羽國金澤ノ城

ニテ武則清原光方子。カ申ケルハ君ノ御矢ニ中ル者。

鎧塊ヲ射徹サレスト云事ナシ抑君ノ御弓勢ヲ

夕シカニ拜ニ奉ラハヤト望ミケレハ義家革能カニキキ

鎧ニ領重子木ノ枝ニ懸テ六重ヲ射徹シ給ケレ

ハ鬼神ノ變化トソ恐ケル是ヨリ彌兵共歸服シ

ケリト申傳ヘテ聞ハカリ也眼前ニカ、ル弓勢

モ侍ニヤ穴怖シトソオテアヘル。半井本云是ハ眼前也一人シ

テ鎧ノ四五領モ重著サランニハ人種アルニ
如何セニ引返サセ給ヘト申ケレハ重盛是ヲ聞

テ云々此下別出下與角口々ニ云レテ大將宣
本書大同小異可并見。

源氏物語

ケルハ必清盛カ此門ヲ承テ向タルニモアラス
何トナク押寄タルニテコクアレ。何方ヘモ寄ヨ
カシ。サラハ東ノ門カトアレハ兵皆ツレモ此門
近ク候ヘハ。若同人ヤ固テ候ラン。只北ノ門ヘ向
ハセ給ヘトイヘハ。サモ云レタリ。今ハ程ナク夜
モ明ナンス。然レハ小勢ニ大勢懸立ラレンモ見苦
カリナントテ引退處ニ。嫡子中務少輔重盛。生年
十九歳。赤地錦直垂ニ。澤瀉威ノ鎧ニ。白星ノ盛ヲ
著。二十四差タル中黒ノ矢負。二所藤ノ弓持テ。黄

河原毛ナル馬ニ乗。進出テ救命ヲ蒙テ罷向タル
者カ。敵陣コハシトテ引返ス様ヤアルヘキ。續ケ
ヤ若者トテ懸出ラレケルヲ。清盛是ヲ見テ。有ヘ
フモナシ。アレ制セヨ者トモ。爲朝カ弓勢ハ目ニ
見ヘタル事ツカシ。アヤマチスナト宣ケレハ。兵
トモ前ニ馳塞リケレハ。カナク。京極ヲ上リニ。春
日表ノ門ヘソ寄ラレケル。
○半井本云。重盛是ヲ聞テ。何ト云ク伊藤五。爲朝
カ矢ニ中リテ見セント云モアヘス。只一人。門

ノ方ヘツ馳寄ケル。清盛是ヲ見テ。大炊御門ノ
西門ヲハ。清盛攻セヨト宣旨ヲ蒙タル事モナ
シ。何トモナク寄ル程ニ。暗キ紛レニ不祥ニテ
コソ。此門ヘハ寄當リタレ。若黨失テ無益也。重
盛ニ目放ツテトテ。雜色共ノ中ニ取籠テ守リ
ケリ。東ノ門ヘカ北ノ門ヘカ參ルヘキツト宣
ケレハ。即等トモ申ケルハ。東ノ門ハ此門近ク
候ヘハ。同者ヤ固タルラントソ申ケル。其時安
藝守宣ケルハ。引退テ京極ヲ廻テ。春日面ノ門

ヘ寄ヘシトテ。三條ヲ東ヘ引退云ケ。

○京師本杉原本竝云。爰ニ安藝守。大炊御門西ノ
門ヘ押寄テ。此門ヲ固タルハ源氏カ平氏カ。角
申ハ安藝守平清盛宣旨ヲ承テ。此陣ニ罷向候
ト高ラカニ名乗ケレハ。ハ即是ヲ聞テ取アヘ
ス申ケルハ。院宣ヲ承テ此陣ヲ固タルハ。鎮西
藏人爲朝ナリ。安藝守此陣ヘ向ハレ候コソ幸
ナレ。ヤカテ見參ニ入ヘシト申ケレハ。清盛是
ヲ聞テ小音ニ成テ。スサマシキ者ノ固タル物

哉トテ。以外周章騷テ。進得ス控タル所ヲ見テ。
伊藤武者景綱。三十騎許ヲ相具シ門近ク進寄
テ。是ハ伊勢國住人古市伊藤武者景綱子息伊
藤五伊藤六。今日ノ軍ノ先陣ソト名乗ケレハ。
為朝件ノ大弓ニ。サキ細ノ矢ヲ打番ヒテ。平氏
カ郎等サシモノ者ニテハヨモアラシ。此矢ヲ
射ニスルハ彼カ爲ニハ惜キ物哉ト宣ケレハ。
須藤九郎申ケルハ清盛カ郎等ニハ。是等コソ
宗徒ノ者ニテ候ヘ疾アソハシ候ヘト申ケレ

ハ。去ハ軍神ニ祭ラントテ暫弓ヲ引持表ニ進
タル伊藤六カ真中ニ押當テ發テテリ。ナシカ
ハハツルヘキ。鎧ノ引合ヨリ後ハツト射抜テ。
次ニ控タル伊藤五カ射向ノ袖ニ。藁カイテコ
ソ射出シタル。伊藤六一タマリモタマラス。馬
ヨリ倒ニトウト落レハ。兄ノ伊藤五。人手ニカ
ケシトヤ思ヒケン。馬ヨリ飛テ下リ第カ首ヲ
取。景綱是ヲ見テ。急キ引返シテ。清盛ノ御前ニ
參テ申ケルハ。宍怖シノ鎮西八郎殿ノ弓勢ヤ

候。伊藤六矢場ニ射落サレテ候。彼者ハ鎧ヲ重
ラ著候ツル。二領ノ具足ヲ射徹ス夕ニモ。イカ
メシト覺候ニ。伊藤五カ鎧ノ袖裏カイテ候。加
様ニ候ハシニハ。如何ナル鎧ヲ著テ。此門ニハ
向候ハシスルツ。如何様鎧ヲ十領モ重テ著サ
ランヨリ外ハ。叶フヘシトモ覺候ハス。命アリ
テコソ軍ヲモ仕候ハシスレ。宥スサマシノ人
ノ勢候ヤト申ケレハ。兵共是ヲ聞。舌ヲ振テ怖
アヘリ。清盛何條サル事有ヘキ。但矢ツキハヤ

ニテ。二ノ矢ヲモ射タルラン。彼者カ祖父ハ幡太
郎義家。貞任追討ノ時。將軍三郎武則カ勸ニ依
テ。カナマセノ鎧三領ヲ木ノ枝ニカケテ射徹
シタリシソカレ。正シキ其孫ナレハ。サル事モ
ヤ有ラン。此ハ即カ子勢ノ事ハ聞及タリ。必シ
モ此門ヘ向ヘト云宣旨ヲ蒙リタル事モナレ。
唯暗紛レニ寄ツル程ニ。此門ニ寄ツルニテコ
ソアレ。去ハ餘ノ門ヘヤ向フヘキ。又東ノ門ヘ
ヤ向フヘキト宣ケレハ。物ノ恥ヲモ知タルモ

ノハ音モ世ス。怖アヘル者ハ尤然ルヘシト覺候。但東ノ門モ此門近ク候ヘハ。同人カ固テヤ候ラン。北ノ門ナトヘモ向ヒ給フヘキヤラント口ケニ申ケレハ。取テ返サントスル處ニ。重盛口惜キ事ヲモ仰候物カナ。合戰ノ庭ニ出テ敵ノ強ケレハトテ引退クニ於テハ。軍ノ勝負爭カ有ヘキ。重盛ニ於テハ。八郎カ矢サキヲ一防キ防カント思切タリ。爰ニ骸ヲ暴スヘシトテ進ケリ。其出立ハ。赤地錦直垂ニ。サカラモ夕

カノ鎧ノ蝶丸ノスツカナ物シケク打タルカ。白覆輪カケタルニ。白星ノ塊紅ノ纒マツクラニカケテ。鷄毛ナル馬ニ。鑄懸地ノ黃覆輪ノ鞍置テツ乘タリケル。重盛名乗ケルハ。桓武天皇十三代後胤。平將軍貞盛末葉。安藝守清盛嫡子。中務少輔重盛。生年十九歲。軍ハ是カ始ナリ。聞ユル鎮西八郎殿ニ見參申サント。高ラカニ名乗ケルヲ安藝守大ニ騷キテ。アフナニヤ殿。八郎カ矢サキニハ。鐵ノ楯ヲツキテモ叶フヘ

カラス。若キ者ナレハ思慮ナクテソハヤルラ
ニ。各馬ノ前ニ馳塞テアヤマチサスルナ。アレ
ヨクト宣ケレハ。郎等トモ馳寄馳寄。左右ノミ
ツ、キ鞠ニ取附テ。真中ニ取籠ケレハ。心ハカ
リ早レトモ。爰ヲハオシテ引退。云々。此下至段
尾又異。別出于下。

爰ニ安藝守郎等ニ。伊勢國住人。伊勢據諸本。當作伊賀。本書前後作伊賀。今偶誤耳。山田小三郎伊行ト云ハ。又ナキ剛者。カクカハ破リノ野猪武者ナルカ。

○半井本云。山田進出テ申ケルハ。若殿原ニ申ヘ
キ事候。暫御馬ヲ駐。物御覽候へ。筑紫八郎ノ矢
ニ中リ。後代ニ名ヲ留テ物語ニモセシ。八郎殿
ノ矢ナラシカラニ。鎧武者二人ヲハ通ラシ。矢
ツキ早クテ暗サハ暗シ。二ツヲ一ツトコソ見
タラヌ。縦二人ヲ通ストモ。是行カ鎧ハヨモ通
ラシ。云々。京師本。杉原本。山田始末。與本。書頗異也。別出于段尾。
大將軍ノ引給フヲ見テ。サレハトテ矢一筋ニ恐
テ。向タル陣ヲ引事ヤアル。縦筑紫八郎殿ノ矢ナ

リトモ。伊行カ鎧ハヨモ徹ラシ。五代半井本傳作三代傳へ

テ。軍ニ逢事十五箇度。此下半井本。別出于下。我手ニ取テモ。

度々多クノ矢トモヲ受シカト。イマ又裏ヲハカ

カ又物ヲ。人々見給へ。八郎殿ノ矢一ツ受テ。物語

ニセントテ懸出レハ。ヲコノ高名ハセ又ニシカ

ス。無益也ト同僚トモ制スレトモ。本ヨリ云ソル

言葉ヲカヘサ又男ニテ。夜明テ後ニ傍輩ノ。八郎

ノイテ矢目見ントイハシニハ。何トカ其時答フ

ヘキ。然レハ日ヒ來ヨノ高名モ。失ナシ事ノ無念ナレ

ハ。ヨシク人ハ續カストモ。已證人ニ立ヘシトテ

下人一人相具シテ。同前共々思ハシ事ハ

○半井本云。是行モ三度ハ此鎧ヲ著テ。多クノ矢

ヲ受タレトモ。一ツモ裏ヲカス。アキ間ヲ射

ラレテ死スルハ。自業自得果也。物見テワセヨ

ト云ヘトモ。聞入人モナシ。適モ一騎モヒカヘ

ス皆引ケレハ。是行許只一人ソ引ヘタル。安藝

守ニハ召仕ルレトモ。御恩ナケレハ乘替一騎

モ具セス。冠者原タニモ具セサリケリ。山立海

賊ノ訴詔ハ。無實カ實犯カ。ソレヲメニセラル
ルヲ以御恩ニシタリ。郎等トモナク。舍人トモ
ナク。馬ノ口ニ附タル一人ソ有ケルニ向テ云
ケルハ。已ヲ年來召使フ情ハ只今ニテアルツ
心ノハヤリノマ、ニ。守殿ノ御前ニテ詞ヲ放
チテ申ツ。男ノ云ツル事思ヒ返ス様ヤハアル
ニ。仕出シタル事モナクテ歸タラハ。守殿ノ思
召處ハサル事ニテ。同僚共カ思ハン事ノ愧シ
サユ。八郎ニハ何クヲ射サセタリシツ。イテ矢

目見ント云ニツリハ如何セン。人有ハ蒐フ。人
ナクハカケシト思ヒケルカト問様ニ云レナ
ハ。年來日來ノ高名モ。何事ニテモ有マシ。死タ
ラハ骸ヲモ堀瘞ニ。妻子ニモ子細ヲモ語レ。生
タラハ後ノ證人ニモタテ。人モナキニト云ケ
レハ。下人様々ニ諫ケレトモ更ニモチ井ス。馬
ノ鼻ヲ引返シテ。門ノ前へ歩マセ行。安藝守ノ
内ニハ。弓矢取ニハ許サレタル。強弓精兵ノ者
也。十三束ニ伏ヲ射ケル云々。

黒草威ノ鎧ニ黒草半井同毛ノ五枚半井本兜ヲ作鉄形

猪頭ニ著。十八差タル染羽ノ矢負スガコト塗籠藤ノ弓

持半井本云黒小口ノ矢鹿毛ナル馬ニ。黒鞍置テ

乗タリケリ。

○半井本云八郎殿ノ弓勢イカメシト云トモ。是
行カ小矢ツカヲ。前様ニ進ラセ懸タラニハ。
運クラヘニテニツアラニスレ。弓矢取者ノ合
戦ノ場ニ出テ死スルハ勿論也。生テ歸ルコソ
不思議ナレトツフヤキテ。門前ニソ歩マセ寄。

舍人男申ケルハ。年來ノ御情ハサル事ニテ實
ニ兵ノ合戦ノ場ニ出テ、生テ歸ルヘシトヤ
思フヘキ。下臈ナレハ證人ニ立ナント仰ラレ
候カ口惜候者哉。何クマテモ御供スヘシ。又生
タリ共。從者ヲ證人ニ立給ハ、叶フヘキ事カ。
先某命ヲ捨テ見セ奉ラント云テ。長刀ヲ打振。
八郎殿ノ下部ノ中へ走入。其後ハ又モ見ヘス。
是ヲ見テ。是行殊更思切テ。指アラハレテ申ケ
ルハ。是行其人柄ニテ候ハ子ハ。音ニハヨモ聞

後醍醐天皇御記

召候ハシ。今日始テ見參ニ入ヘシ。是ハ安藝守郎等云々。

門前ニ馬ヲ懸居^{カケス}物ノ者ニハアラ子トモ。安藝

守郎等伊賀國住人山田小三郎伊行。生年二十八。

堀河院御宇嘉承三年^{乃鳥羽帝}正月二十六日^{天仁元年}。

二十字據中右記。古事談等義親堀河帝康和中坐^行

事流隱岐而留于出雲劫畧人民侵奪官物因使平^{義源}

正盛討之嘉承三年正月六日誅殺^{對馬守義親}

之二十九日正盛齋義親首歸京^{義源}

家追討ノ時故備前守殿^{正盛平}ノ真先懸テ公家

子^{正盛子}追討ノ時故備前守殿^{正盛平}ノ真先懸テ公家

ニモ知レ奉リ^{堀河院以下至此半井本不載而}

帝王ニ奉リ山田庄司行末カ孫也^{行末半井山賊}

強盜ヲ擗取事ハ數ヲ知ス合戰ノ場ニモ度々^{井半}

本作ニ及テ高名仕タル者ソカシ^{半井本云高キ}

カシト聞エルハ互ニユカシキ事ニテコソ候ヘ^{老夕}

云承及八郎御曹司ヲ一日見奉ラハヤ^{半井本云}

給テ死ハ後生ハ訴生ハ現世ノ名ト申ケレハ^{御年一ツ}

爲朝一定キヤツハ引儲テソ云ラン^{半井本云爲}

テ如何セシ定テ引設テ待ラン爲朝程ノ者ヲ取^招

テ懸ハ手本ノ覺ユル者ニテ音ニ附テ内堀ヲ子^取

ノ矢云々

一ノ矢ヲハ射サセンス

二ノ矢ヲ番

源氏物語 卷三

ハニ所ヲ射落サニス。同ハ矢ノタマラン所ヲ我
弓勢ヲ敵ニ見セニト宣テ。半井本云。家季能候ナ
ノ直垂ニ。唐綾威ノ鎧。龍頭ノ兜。長覆輪ノ太刀ハ
キ。山鳥ノ尾ノ藤ノ皮ニテハキタル矢。二十四指
タル。前ニ一ツハ射タリ。節卷ノ弓
握リフトニテハ尺五寸ヲ持云々。白蘆毛ナル馬
ニ半井本云。七寸ニハツレテ太ク。金覆輪ノ鞍置
テ乘タリケルカ。懸出テ。鎮西八郎此ニ在ト名乘
給フ所ヲ。本ヨリ引儲タル箭ナレハ。弦音高ク切
テ發ツ。御曹司ノ弓手ノ草摺ヲ。縫様ニツ射切タ
ル。半井本。此以一ノ矢ヲ射損シテ。二ノ矢ヲ番フ
下別出下。

所ヲ爲朝能引テ兵ト射ル。山田小三郎カ鞍ノ前
輪ヨリ。鎧ノ草摺ヲ尻輪懸テ。矢サキ三寸餘ツ射
通シタル。暫ハ矢ニカセカレテ。タマル様ニツ見
ヘニ。即弓手ノ方へ真倒ニ落レハ。矢尻ハ鞍ニ留
リテ。馬ハ河原へ馳行ハ。
○半井本云。御曹司ノ弓手ノ草摺。縫様ニシタ、
カニコソ徹タル。詞ニ合テハシタナク射タリ。
サレハコソト思ヒ。例ノサキ細ノ矢ヲ打番テ。
巴カ詞ノヤサシケレハ矢一ツトラセニ。此矢

源氏物語 卷三

新編元祿物語 卷三

ヲ賜リナン後ハ。生ル事ハヨモアラレ。後生ノ
訥ニセヨトテ引テ發ス。是行カ鞍ノ前輪ハ夕
ト射破テ。草摺ノ夕、ナハリタルヲ射徹シ。主
ヲ射抜テ尻輪ニ射附タリ。是行ハ一ノ矢射損
シテ。口惜クヤ思ヒケン。急キ二ノ矢ヲ打クワ
セテ。打揚打揚二三度シケルカ。正念次第ニ迷
ヒケレハ。弓矢ヲ捨テ。ウト落ツ。矢ニ荷ハレ
テ暫懸タリケルカ。矢ノ中折テ落ニケリ。馬ハ
西ノ川原へ馳出タリ。云云。此下。半井
本不載。

下人ツト馳寄。主ヲ肩ニ引懸テ。御方ノ陣へソ歸
ケル。寄手ノ兵是ヲ見テ。彌此門へ向フ者コツナ
カリケレ。且ハ外ハ...
○京師本杉原本竝云。爰ニ伊賀國住人。山田小三
郎惟行ト云アラ者アリ。進出テ申ケルハ。警守
殿引退給フトモ。惟行ハ罷留テ。八郎殿ノ大矢
ヲ受テ見ント存候。暫ク馬ヲ控テ御覽セヨカ
シ。人々ノ聞臆シツ。スラン。サヌカニ爭
カ鎧武者二人ヲハ射徹シ給フヘキ。警又サル

新編元祿物語 卷三

事アリトモ。惟行カ鎧ヲハヨモ徹シ給ハシ。惟
行マテハ此鎧三代京師本云。惟行
モ三度云々。マテ軍ニ逢
イヘトモ。一度モ裏カ、ス。透間ヲ射ラレテ
死ナシ事ハカナシ。其殿ノ弓勢イカメシト云
トモ。惟行カ小矢ツカヲサキタテ、内兜へ射
入ナシ後ハ。運クラヘニテツアラシ。且ハ鎧ノ
札ガツモタメシ。且ハ後代ノ物語ニモスヘシ。人
人證人ニ立テ物ヲ見給ヘト。主ヲ恥シムル様
ニノ、シレトモ。誰カハ耳ニモ聞入ヘキ。吾先

ニト引退。惟行カ及ハスシテ。唯一騎スヨクト
ツ控タル。身ノ分限ナカリケレハ。乗替マテハ
思ヒモ寄ス。ハカクシキ徒立ノ一人ヲタニモ
具セサリケリ。僅ニ馬ノ口ニ附タル舍人一人
ツ在ケル。心ノハヤルマ、ニ怒イサナル事ハ云散
シツ。伴フ者ハ一人モナシ。サレハトテ又退ヘ
キニモアラス。明日創まノ實檢軍評定ノアラシ
スルニ。山田ガ。八郎殿ニ射ラレタリケル矢メ
ハ何クツ。鎧ハ堪こヘケルカ。口ニハ似サリケリ

ナレ、云レニ時ハ。何トカ答フヘキ。偕ハ討死スル
ヨリ外ハナシトテ。アヒ近ク向ヒケルカ。舎人男ニ
云ケルハ。如何オシ已。年來從ヒ仕ヘテ。差タル思出
モナクテヤミナシ事コソ不便ナレ。サレトモ
前世ノ宿習トテ。主トナリ郎等ト成テカ、ル
最期マテ附副マトハリヌルコソ嬉ウレシシケレ。惟
行カ詞ハ汝モ聞ツラン。今取テ返サント思フ
トモ叶フマシ。八郎殿ノ矢ニアタリテ死ヤシ
事一定ナリ。但弓矢トル者ノ懸ル事ニ逢ハ願

フ所ノ幸也。生タリトモ死タリトモ。勲功ハ定
テアラニスルツ。其時ハ汝カ世ニテコソアラ
ンスレ。死タラハ恥ツモカクシ。千萬ニ一ツモ
生タラハ。奉公ノ者ト思知ニスルツ。軍ノ證人
ニ立テ。惟行カ最期ノ有様。後ニ物語セヨト云
ケレハ。彼者ハ主ニモ劣ラヌ剛者ニテ。弓矢ヲ
トリ給フ人ニツカヘ申者ノカ、ル事ニ逢ヘ
シトハ。兼テ存知仕候者ヲ。主ノ討死シ給フヲ
見捨。某生留リテ何ノ詮カ候ヘキ。殿ノ討死ハ。

先某死テ後ノ御事ナルヘシ。家人ヲ證人ニ立給ヒタラハ。人豈證人ト思フヘキヤ。又勲功ノ事ハ。命生テノ上ノ事也。アラ徒事ヤトテ。長刀ヲ取直シテ。先ニ立テツ走ケル。惟行年二十八。大男ノシタ、カ者也。弓ハ三人張。矢束ハ十三束。サケ針ヲモ射ント思フ者也ケルカ。黒草威ノ大アラメノ鎧著テ。黒羽ノ矢負。二所藤ノ弓持テ。鹿毛ナル馬ノ太ク逞シキニ。黒鞍置テソ乗タリケル。門近ク打寄テ名乗ケルハ。鈴鹿山

立烏帽子ヲ搦捕テ奉リ。帝王ノ見參ニ入リシ。山田庄司行秀與本書及半井本異可并見後胤伊賀國住人山田小太郎惟重カ嫡子。小三郎惟行ト云者也。京師本云。安藝守ハ。聊仔細ニ依テ引退レ候ヘトモ云々。承及鎮西八郎殿ニ見參申サシ為ニ。此門ニ罷向タリ。京師本云。身モシタ、カニ心モ剛ニ。弓矢取テモ能敵ト聞テハ。互ニ床シキ事ニテ候云々。何カ苦ク候ヘキ。中差一ツ賜テ。今生ノ面目。後生ノ思出ニ仕ラント。高ラカニ言ケレハ。此下。為朝惟行。問答。本書為。為朝。景綱。問答。可并見。為朝コハ如何ニ。巳カ主ノ清

盛シタニ。不足ノ敵ト思フ者ヲ。清盛此陣ヲ引退モ理也。平氏ハ桓武ノ後胤トハイヘトモ。王孫遙ニ隔リヌ。源氏ハ清和ノ後胤。為朝マテハ正シキ九代也。全ク汝カ向フヘキ門ニハアラス。疾々引退ケト宣ケレハ。惟行。是ハ御曹司ノ御錠トモ覺候ハヌ者哉。昔ヨリ源平兩家。鳥ノ左右ノ翅ノ如クニテ。共ニ朝家ノ御宇ナリ。然ルニ源氏世ヲ亂セハ。平氏是ヲ鎮メ。平家朝家ヲ背ク時ハ。源氏是ヲ平フ。平氏ノ郎等ノ射ル

矢。源氏ノ御身ニ立ヌ様ヤ候。今コソ御覽セラレ候ハメトテ。唯進ニソ進ケル。為朝ニクキ奴カ詞哉。其義ナラハ。只一矢ニ射殺シテ捨ントテ。例ノサキ細ノ矢ヲ打番テ。既ニ引ントシ給ヒケルカ。是程騒カヌ奴ナレハ。定テテ引儲。為朝カ内塊ヲ射ントソチラフラン。相引シテ透間射ラレテ叶フマシ。一ノ矢ヲ射サセテ心ヲ見ントテ。暫タメラヒ給ヒケル處ニ。案ノ如ク引儲タル事ナレハ。内塊シト心サシヒヤウ

ト射ル。為朝ノ鎧ノ障子ノ板ヲ。縫様ニシタ、
カニソ射閉タル。今少アケテ射タリセハ。頸ノ
骨何カタマハルヘキ。其後為朝弓矢トル者ハ角
コソアラマホシケレ。平氏カ郎等。今更心ニク
クコソ覺ユレ。為朝カ矢ハ惜ケレトモ。已カ振
舞ノヤサシケレハトラスル也。今生ノ思出ハ
ナクトモ。後生ノ訴ニ仕レトテ少シ差サケテ。
馬ノ頭ニ推アテ發サレタリ。惟行カ鞍ノ前輪
ヲ射碎キ。京師本云。草摺ノタ、ナワ
リメヲ後ヘツト射抜。云云。矢サキ長

ニソ射出シタル。惟行ニノ矢ヲ番テ。ヒカニク
トシケルカ。心神忽ニクレ。正念次第ニ矢ニカ
ハ。弓矢ヲ捨馬ヨリ倒ニ落ケルカ。矢ニ荷ハレ
テ暫ク落ス。馬驚テ。彼方此方ヘ走ケル程ニ。カ
ナクリ落ニソ落ケル。餘リニ武者ノ剛ナルモ。
却テオコカニシク覺ケル。高間小三郎馬ヨリ
飛テ下リ。惟行カ首ヲ取テケリ。舍人男心得タ
リト云マ、ニ。長刀打振。敵ノ中ヘ走入。散ケニ
切テ廻リケレトモ。敵餘多ニ取籠ラレテ。終ニ

討レニケリ。其ヨリ後ハ此門へ向フ者コソナ
カリケレ。云云。

白河殿攻落事

去程ニ夜モ漸明行ニ以上京師杉原半井三本不
義而云義朝二條河原ニ控
ヘタル所主モナキハナレ馬源氏ノ陣へ懸入タ
ニ云云。
リ。鎌田次郎是ヲ取セテ見ルニ鞍壺ニ血タマリ。
前輪ハ破レテ尻輪ニ鑿ノ如クナル矢尻留レリ。
鞍壺以下至此京師
杉原半井三本不載是ヲ大將軍ニ見セ奉リテ。今
夜筑紫御曹司ノ遊サレテアリケニ候。穴イカメ

シノ御弓勢ヤト申ケレハ。半井本云。義朝前輪ヲ
射破ルタニモ有難キ
ニ。主ヲ射洞ニ尻輪ニ射附ヘキ様ヤア。義朝八郎
ハ今年十八九ノ者ニテコソアレ。イマタカモカ
タマラシ。ソレハ敵ヲオトサントテ作テコソ放
ケメ。ソレニハ臆スヘカラヌ。汝向テ一當アテ、
見ヨト宣ヘハ。左承候トテ。正清百騎許ニテ押寄
テ。下野守ノ郎等ニ。相模國住人。鎌田次郎正清ト
名乗ケレハ。サテハ一家ノ郎從コサシナレ。大將
軍ノ矢面ヲハ引退ケト宣ヘハ。本ハ一家ノ主君

ナレトモ。今ハ八逆ノ凶徒也。半井本云。正清ハ。副
將軍ノ宣言ヲ蒙テ。
リ。相傳ノ士ニ。郎等ノ矢立ヤ立ヌヤ試給ヘトテ。
我詞果ナハ射ラレト思ヒ。一ノ矢ヲ發チケレ
ハ。左ノ頬サキキ半頭ノ間ヲ射削リ。違勅ノ人々討
兎ノ手サキニ射ツケタリ。云々。
取テ。高名セヨヤ者共ト云モ果ス。能引テ發ツ矢
カ。御曹司ノ半頭ニカラリト中リテ。兎ノシコロ
ニ射附タリ。爲朝餘ニ腹ヲ立テ。此矢ヲカイカナ
クリテ投捨。已程ノ者ヲハ矢タフナニ。手取ニセ
ントテ懸給ヘハ。須藤九郎家末。惡七別當以下。例
ノ二十八騎續キタル。正清叶ハシトヤ思ヒケニ。

百騎ノ勢ヲ引具シテ。川原ヲ下リニ五半井本
作ニ。
許。フルヒク逃タリケリ。御曹司ハ弓ヲハ脇ニ擡
挾シ。大手ヲヒロケテ。トコマテトコマテト追レ
ケルカ。半井本云。寶莊嚴院ノ西ノ門迄攻懸タリ。
返シモ合テハ。御曹司馬打馳テ。若黨長追
ナセソ。馬ノ氣ノ絶ルニ。又門モ覺東ナシ。サノ三
押隔ラレテハ門破レナシ。判官殿ハ云々。
長追ナセソ。判官殿ハ心コソ猛クオハシマセト
モ。年老給ヒ又。殘ノ人々ハ口ハキハ給ヘトモ。サ
ノ三心ニクカラス。小勢ニテ門破ラルナ。返セヤ
トテ引返ス。鎌田ハ河原ヲ西へ引ハ。大將軍ノ陣

ノ前敵ノ追懸ンモ惡カリナント思テ。半井本云。東河原ヲ

三町許。直下リニ逃タリケルカ。敵引返スト見テ

ケレハ。川ヲ直違ニ馳渡シテ。按此間文不連續。必

義朝前云ケ。句。半井本云。下野守ノ前ニ馳參馬ヨ

リ飛テ下リ。船ヲ脱高組ニカケ。弓脇挾。アエク

東ニテ云ケ。坂遁參テ候。坂東ニテ多クノ軍ニ逢

テ候ヘトモ。是程軍立ハケシキ敵ニイマタアハ

ス候。雷電ナトノ落懸ランハ。事ノ數ニモ候ハシ

ト申ケレハ。義朝ノレハ聞ユル者ト思テツツレ

ハコソハ。左有ラメ。八郎ハ筑紫生立ニテ。舟ノ中

ニテ遠矢ヲ射。徒立ナトハ知ラス。馬上ノ業ハ坂

東武者ニハイカテ及ハシ。馳雙テ組ヤ者トモト

下知セラレケレハ。

○半井本云。義朝宣ケルハ。只正清カ思ヒナシソ。

八郎ハ今年十八ニ成ト覺ユ。セイハ大也トモ。

イマタ身ノカハツノルニ。筑紫生立ノ者。遠

矢ヲ射學ヒ。太刀遣フ様ハ知タルラン。徒立ハ

ヨクトモ。馬上ニテ押ナラヘテ組事ハ。武藏相

模ノ若黨ニハ爭カ優ルヘキ。押ナラヘテ組テ

見ヨ者トモ。手本有テシキソト宣ヘハ。武藏相
模ノハヤリオノ若者共是ヲ聞。スハク我等ヲ
スカシ合殺サントシ給フハ。已。矢取テコソ能
ラヌ。打物遣フ事ハ筑紫ニ聞ユル肥後國住人
ヲイテノ次郎大夫教高。九國一番ノモノ切也。
ソレニ習テ師ニハ遙ニ超過シテオハスナル
者ヲ。争^{アツク}ニツノラストモ。彼程ノ勢氣體ニテ暮^{ツク}
タル我等ニハ似テシキソ。若^{モシ}遠矢ニ射ハ。アキ
間ニ中リテ射殺ス事ハ有トモ。打物遣ニ組事

ハ叶フマシト。サ、ヤク色ヲ見テ。下野守エリ
拔テ。相模若黨追ヤ追ヘトソ下知シタル。云云。
相模國住人^{半井本載大場}。須藤刑部丞俊通其子
龍口俊綱。海老名源八季定。秦野次郎延景等ヲ始
トシテ。二百餘騎ニテ追懸タリ。爲朝寶莊嚴院ノ
西ウラニテ返シ合テ。火出ル程ノ戦タル。^{半井本}
^{後陣ニ控ヘテ}鎧踏張^{云々。而無義朝鎧馬品。}大將ハ赤地錦ノ直垂ニ。黒
絲威ノ鎧ニ。鍬形打タル堦^{カキ}ヲ著。黒馬ニ黒鞍置テ
乗タリケリ。鎧踏張ツタチアカリ。大音揚テ。清和

天皇九代後胤下野守源義朝大將軍ノ救命ヲ蒙
テ罷向フ。若一家ノ氏族タラハ速ニ陣ヲ開テ退
散スヘシ。若一家以下至此半井本不載トソ宣ケル。為朝聞モア
ヘス。嚴親判官殿院宣ヲ蒙給ヒテ。御方ノ大將軍
タル。其代官トシテ。鎮西八郎為朝。一陣ヲ承テ固
タリトソ答ケル。義朝重テ偕ハ遥ノ弟コサンナ
レ。汝兄ニ向テ弓引ン事。冥加ノキニアラスヤ。且
ハ宣旨ノ御使也。禮儀ヲ存セハ。弓ヲフセテ降參
仕レ。自且宣旨至此半井本不載。而云落ヨ助ケントソ云ケ。トソ申サレケル。

為朝又兄ニ向テ弓引ンカ冥加ナシトハ理ナリ。
正ニ夕院宣ヲ蒙タル父ニ向テ。弓引給フハ如何
ト申サレケレハ。義朝道理ニヤ詰ラレケシ。其後
ハ音モセス。武藏相模ノハヤリヲノ者トモカ。葛
地ニ打テ懸ルヲ。為朝暫支テ防ケルカ。敵ハ入勢
也。懸隔ラレテハ判官ノ為惡カリナシト思テ門
ノ内ヘ引退。敵是ヲ見テ。防兼テ引トヤ思ヒケン。
勝ニ乘テ門ノ際迄攻附テ。入替入替揉タリケリ。
武藏相模以下至此半井本不載。爰ニ為朝。敵ノ勢コシニ見レハ。

半井本云。為朝ハ鎧踏ハリ弓杖ニ大將義朝。大ノ
 スカリ。立アカリテ見レハ。云々。男ノ大キナル馬ニハ乗タリ。人ニ勝レテ軍ノ下
 知セントテ。ツ立舉リタル内兜。誠ニ射ヨケニ見
 へケレハ。願フ所ノ幸得タリト悦テ。件ノ大矢ヲ
 打番ヒ。半井本云。例ノサキ細ノ矢指只一矢ニ射
 落サント打揚ケルカ。待シハシ。弓矢取身ノ謀。汝
 ハ内ノ御方へ參レ。我ハ院方へ參ラン。汝員ハ憑
 ヌ助ケン。我員ハ汝ヲ憑ニテト約束シテ。父子立別
 レテカオハスラン。半井本云。其上為朝ヲ幼少ヨ
リ。兄弟皆失テ。我一人世ニ

ラントスル上世者トテ。久シク不孝ノ身ニテ有ル。
 希ニユリテ上リ。親ノ免シモナク。兄ヲアヘナク
 射殺シテ。重テ不孝セラト思案シテ。番タル矢ヲ
 レハ如何アラン云々。ト思案シテ。番タル矢ヲ
 指ハツス。遠慮ノ程ユソ神妙ナレ。此。下半井本。都
 テハ郎ノ矢ニ中ル者。助カルモノソナカリケル。
 サレハ罪造リトヤ思ハレケン。名乗テ出ル者ナ
 ラテハ。左右ナク射給ハサリケリ。長井齋藤別當
 真盛。第三郎真負。片桐小八郎大夫景重。須藤瀧口
 以下宗徒ノ兵。攻入攻入戦ケレハ。惡七別當。手取
 與次。高間。三郎。同四郎。吉田太郎以下。爰ヲ前途ト

防キケリ。片桐八郎大夫ニ。手取與次ノ懸合ケル。

與次ハ若武者也。景重ハ老武者ナルウヘ。戰疲テ

既ニアブナク見ヘケル所ヲ。秩父行成平武者秩父行弘子

號武者馳合テ。能引テハナツ矢ニ。與次カ妻手ノ

草摺ノハツレヲ射サセテ引退ケハ。景重勝ニ乘

テソ懸入ケル。都テ八郎矢云ケ至此。半井本甚異也。見テ左。

○半井本云。為朝暫支ヘテ戰ケルカ。味方ハ小勢

也。東西ヨリ押隔ラレナハ門破レナントテ。三

四段許引退テ控タリ。下野守勝ニ乘テ。攻ヨ攻

ヨ息ナクレソ。死チヤクトソ下知レタル。馬ヲ

ハ棄。我モ我モト門ノキハニ近ツキテ戰フ兵

トモ。大庭平太。同三郎。須藤刑部丞父子。海老名

源八季貞。波多野次郎信景。後藤兵衛真基。信濃

國。佳人敵小八郎大夫景重。敵當作片桐。是等ハ人ニ

モ勝レテ。面ニ立テ見ヘタリ。其中ニ景重。門ヨ

リ西築地ノ犬走ニ打テ出。長刀脇挾テ立タリ。

カタヘノ者トモ是ヲ見テ。古兵ナレハオソ口

ニサヨ。軍モセテ休トコソ申ケレ。暫アリテ走

寄筑紫八郎ノツカセタル楯ヲ奪取。是ヲツキ
テ軍セヨヤ殿原トテ投出シタリ。長刀ヲ取直
シ。敵打拂テ引退。波多野申ケルハ鎌田カ一度
軍シタレハトテ。又モ見ヘヌカ悪ケレハ。物云
テコフツ殿原。暫支給ヘトテ行テ見レハ。下野
殿ノ後ニ。鎌田馬ニ乗ナカラ。弓杖ツキテフル
ヘフルヘ控タリ。波多野申ケルハ。軍ハ一度懸
タレハ。又ハ懸ヌ事カ。鎌田殿。ナト向給ハヌツ
ト申セトモ。鎌田ハモノモイハス。下野守宣ケ

ルハ。此程正清ハ瘧チ心地オハシケルカ。只今ウ
コキ出タレハ。馬ニタマルヘシトモ覺スト云
ナリ。時中許サタニ有ハ。能成ナンスト宣ヘハ。波
多野哀宿取論ニ勝シニハ似ヌ物哉トテ笑ケ
リ。波多野ハ歸ヌ。人トモニ申ケルハ。此程腹ノ
フクレタリツル減マシタルソ。橋本宿ニテ信景
カ札打タル宿ヲ。頭殿御宿近テ誰掌セウトテ
取替タリシカ悪カリツレハ。只今云テ來ルソ
トテ笑アヘリ。敵ヲハ。八郎殿ハ郎等ヲ以射サ

セタリ組セタリ戰ヘトモ。能敵十名乗ラ又限
 ハ。矢ヲ惜テ射ス。義朝門前へ進出テ。八郎カテ
 勢如何程イカメシト云ナルソ。義朝試ント宣
 ケレハ。承ヌトテ。首藤九郎ヲ召。云々。
 御曹司首藤九郎ヲ召テ。敵ハ大勢也。若^モ矢種盡テ
 打物ニナラハ。一騎カ百騎ニ向フトモ終ニハ叶
 フマシ。坂東武者ノ習。大將軍ノ前ニテハ。親死子
 討ルレトモ顧ス。彌^イ力上ニ死重リテ戰フトソ聞。
 半井本云。門破ラレテ思ハス。他所ヨリハ破ルトモ
 此ヲハ破ラセシト思ハ也。大將軍ノ加後ニ攻寄

テ下知センニハ。百騎カ一騎イサ、ラハ大將ニ
 コ成ニテモ兵八止ニシ。云々。
 矢風負セラ。引退ケント思フハ如何ト宣ヘハ。
 半井本別家末^{前作家季}然ルヘク候。但御誤候ハ
 出テ下。未知孰是。ニト申ケレハ。何條サル事有ヘキ。為朝カ手本ハ
 覺ユル物ヲトテ例ノ大矢ヲ打番。固テ兵ト射ル。
 思ノ矢坪ヲ誤ラス。下野守ノ兜ノ星ヲ射削テ。餘
 ル矢カ寶莊嚴院ノ門ノホウタテニ。篋中セメテ
 ソ立タリケル。其時義朝手綱搔繰打向。汝ハ聞及
 ニモ似ス。無下ニ手コソアラケレト宣ヘハ。

○半井本云。家季。御アヤマテハニセサセ給ハン
ト制止申セハ。為朝ヲハ手本アハラナル者ト
思フカ。能程ニ射懸テ退ケ申サン。大將引ハ兵
トモ引サルヘキカ。下野守門ニハ向ハテ向ノ
頬ナル御室ノ門ノ西ヘヨリ。北ヘ向タルニ。ホ
ウタテニ後ヲ當テ。良向^{ウミ}ニ打立テ。弓杖ツイテ
下知シケリ。八郎ハ御所ノ内。巽^{タツ}ノ方ヘ打寄テ。
築垣^并ニ弓杖ニ杖許寄附立アカツテ。矢根能征
矢ヲ打クワセテ。人ノ上越ニ能引テヒヤウト

射タリ。龍頭ニ鍬形打タル兜ノ星。七八カラリ
ト射散シテ。後ナル御室ノ門ノホウタテノ板
ニ。篋中過テソ射徹^トタル。下野守。目昏テ馬ヨリ
落ニトスルカ。鞍ノ前ツハ馬ノユカニニ取附
テ。兜^カヲ探^サレハ矢モ立サリケレハ。起揚^{オキ}リテ心
地ヲ取直シ。ヘラヌ由ニモテナレテ八郎ハ聞
ツルニハ似ス。手コソアハラナリケレ。敵モ敵
ニコソヨレ。義朝程ノ敵ヲ。悪ク仕者哉ト宣ケ
レハ。云云。

爲朝兄ニテ渡ラセ給フ上存スル旨有テ角ハ仕
候ヘトモ誠ニ御免ヲ蒙ラハ二ノ矢ヲ仕ラシ真
向カク内ウチ塊クマハ恐モ候障子ノ板カ梅檀弦走カ胸板ノ
真中カ草摺ナラハ一板トモ二板トモ此下半井
矢坪ヤツヲサ慥タカニ承テ仕ラントテ既ニ箭取テ番ハレ
ケル所ニ上野國住人深巢七郎清國ツト懸寄ケ
レハ爲朝是ヲ弓手ニ相受テハ夕ト射ル清國カ
塊ノ三板ヨリ直違ナカニ左小耳ノ根へ篋中許射込
レタレハ暫モ夕ラス死マケリ首藤九郎落合

テ深巢カ首ヲハ取テケリ是ヲモ事トモセス我
先ニト懸ケル中ニ上野國以下至此半井本不出
自段首至此京師本杉原本別
出ス下ニ
○半井本云一板トモ二板トモ矢坪ヲ定テ給リ
候へ御前ニ候雜人等ノケラレ候ヘトテ打番
テ引ヲ見テ下野守扉ノ陰へ打寄相摸ノ若黨
何ノ料ニ命ヲ惜ヘキソ攻ヨ懸ヨト下知セラ
レケレハ我劣オシラシト門脇ニ進寄内ヨリ矢サキ
ヲ箭ヤテ射ケレハ面ヲ向ヘキ様ナシ云々

○京師本杉原本竝云。下野守。二條河原ニ控ケル
 處ニ。惟行カ馬。陣中へ走入懸廻ケルヲ。鎌田捕
 へテ。義朝ノ前へ參リ。是御覽候へ。御曹司ノ矢
 ニテ射徹サレ候。平氏カ郎等ノ馬ト覺タリ。此
 鞍ヲ見候ニ。縦番匠カ鑿ニテウチ候トモ。ヤハ
 カ容易タヤスク是程ハ洞うらり候へキ。アライカメシノ御
 弓勢ヤトソ申ケル。下野守何條サル事アルへ
 キソ。義朝ヲ威サントテ。八郎其矢ヲハ謀ニ射
 タルラン。其冠者ハ。今年十七カ八カニコソナ

レ。鎮西ソタチノ者ナレハ。歩カ行立ハ定テ達者
 ニソ有ラン。馬上ニテノ達者ハ。武藏相模ノ若
 者トモニハ。爭イカカ勝ルへキ。只置テ物ヲ見ヨ。ハ
 即ニ於テハ。義朝相手ニ成テ。勝負ヲハ決セン
 トテ。打出懸ントシ給フ處ニ。鎌田。是コソ有ニ
 シキ御事ニテ候へ。大將ノ御懸候ハン事ハ千
 騎カ百騎ニ成。百騎カ十騎五騎ニ成候ハン時
 コソ候へケレト諫ケートモ。猶ハヤリテ懸出
 ントシ給ヒケレハ。郎等足輕トモ四五千人馬

ノ口。前後左右ニ附テ。鎌田先某罷向。事ノ體ヲ
窺^ミヘシトテ。三十騎許ヲ相具シ。門近ク押寄テ。
高ラカニ申ケルハ。此門ヲハ誰人ノ固給ヤラ
シ。角申ハ。今日ノ大將軍下野守殿ノ御乳母子
ニ。鎌田莊司政宗カ嫡子。鎌田次郎正清ト云者
ニテ候。按正清父系圖所載。註于本書第
一卷官軍勢狀段。此所載無所見守殿ノ
仰ヲ蒙リテ。先此門へ罷向候ト訂^ケケレハ。為朝
聞給。コサカシキ奴カ言葉哉。サテハ兄ノ郎等
ニテユソアシナレ。此門ヲハ為朝カ固タルソ。

譬^タ仰ヲ蒙リテ此門へ向タリトモ。爭^ヒカ相傳ノ
主ニ向テ矢ヲハ發^キツヘキ。下野殿向ハレタラ
シ時。返事ヲハスヘシ。汝ニ對スヘキ為朝ニア
ラス。狼藉也。疾ク引退ケトツ宣ケル。正清アサ
笑テ。誠ニ日來ハ相傳ノ主。今ハハ虐ノ凶徒ニ
テマシマサスヤ。宣旨既ニ限アリ。此矢正清ア
發ツニアラス。ハ幡大菩薩ノ發チ給フ御矢ナ
ルヘシトテ。能引テヒヤウト射ル。為朝。鎌田ヲ
見ントフリ仰^ミキタル左ノ頬サキヲ射削テ。盛^カノ

鉢附ノ板ニツ射著タル。為朝餘リノチタサニ。
 答ノ矢ヲ射ルニ及ハス。矢ヲ搔カナクテ投チ
 捨ステ脇ニ挾鎌田メ餘スナ。手取與ニ。打手城
 八ハナキカ杉原本與ニ作與ニ打懸ヨ懸ヨト
 怒テ妻手ヲ差上テ。手捕ニセニト追懸タリ。鎌
 田取テ返シ。鞭ムチ銚シヲ合テ逃ケレハ。已ハトコ迄
 一コマテ。アマスナ洩シスナ。手捕ニシテ首子チ
 キリ。ハザキニセニト追ケレハ。鎌田今ヲ最期
 ト思テ。鞍ノ前輪ニオセニカ、リ。馬ノ息ノ有

ニ限ハト。東河原ヲ真下リニ。捨鞭打ノ逃テケ
 ル。為朝二十八騎。鎌田三十騎。逃ルモ追モ爰ヲ
 限ミ。揉モミニ揉テ馳ケレハ。馬足音ハ。大山ノ崩タタレ
 カ、ルカ如ク也。為朝ノ怒レル聲ハ。雷ノ鳴落
 ルニモ異ナラス。三町許追タレト。唯逃ニ逃延
 ケレハ。子タサハ子タケレトモ。是ニ限ルニシ。
 判官殿ハ老體ニテ。合戰思フ様ニモシ給ハシ。
 兄ノ殿原ハ。口コソキ、給ヘトモ。ハカハカシキ
 軍ハヨモシ給ハシ。サノミ長追シテ。却テ判官殿

ヲ敵ニ隔ラレテハ悪カリナントテ。取テ返シ給
フ。鎌田ハ。河原ヲ西へ逃へカリケレトモ。八郎殿
ヲ。下野殿ノ御陳ノ中へ引入シ事。アリカリナ
ト思ヒケレハ。アラヌ方へ逃ケルヲハ。思慮有者
哉。敵モ御方モ感シアヘリ。鎌田希有ニ命助
リテ逃延ケルカ。京極ヲ上リニ打廻リテ。下野
殿ノ御前ニ馳來テ。息續敢ス申ケルハ。正清大
事ノ合戰共仕候へトモ。是程馬ノ足騒シキメ
ニハ逢候ハス。此馬ハ隨分逸物ト存ツルカ。只

一所ニ躍ル心地シテコソ候ツレ。御曹司。正清
ニ一ノ矢ヲ射ラレ給。無念ニ思召。答ノ矢ヲハ
遊ハシ候ハテ。手取ニシテ首子チ切捨ント。追
懸給ヒツルハ。雷ノ塹ノ上へ落カ、ル心地シ
テ。目モ昏^ク魂モ消^ス馬ヨリ落ヌヘク候ツレトモ。
運強ク候テ逃延助リ候アラ駭シノ御勢ヤト
テ息ツキ居タリ。下野守宣ケルハ。兼テヨリハ
即ハ勢強キ者ト思ヒ。心臆シテク左様ニハ覺
ツラン。如何様八郎ニ於テハ。義朝一當アテ、

見ニ。何程ノ事カ有ヘキトテ出ラレケルカ。
抑今日ハ十一日寅刻也。東ハ日塞ノ方也。其上
朝日向テ弓引ノ事便ナカルヘシ。疾方違セシ
トテ。京極ヲ下リニ。三條ニテサカリ。河原ヲ東
へ打渡シテ。北殿ヲハ北ニ見ナシ。東堤ヲ上リ
ニ北ヲ差テソ向ケル。十一日云云。本書出テ
于上段。為清盛所為。アヒ
近ク打寄此門ヲ固ラレ候ハ誰人ソ。角申ハ下
野守源義朝。宣旨ヲ蒙リ罷向候ト宣ハ郎取敢
ス。御為ニハ舍弟ナル鎮西ハ郎源為朝。院宣ヲ

承。此門ヲ固テ候ト申。義朝コハ如何。宣旨ニ依
テ罷向タリ。急キ此陣ヲ引退候ヘカシ。爭カ救
命ヲハ昔クヘキ。又兄ニ向テ弓ヲ引ヘキ様ヤ
アル。眞加ノ盡ニスルハ如何。ハ郎アサ笑。為朝
兄ニ向テ弓引カ眞加ツキ候ハ。如何殿ハ。現
在ノ父ニ向テ弓引レ候ク。又義朝ハ宣旨ニ從
テ向タルト仰候ヘトモ。為朝ハ院宣ヲ蒙テ固
候。院宣ト宣旨トハ。何レ甲乙カ候ト申ケレハ。
義朝道理ニヤツマラレケン。其後ハ音モシ給

ハス。遙ニ見渡セハ。其間五段許ヲ隔タルラン。
馬上事カラ諸軍勢拔ンテ。哀大將軍ヤトク
見ヘシ。詞戰ニテ立スクシタルニ。夜ノホノホ
ノト明ルニ隨テ。内壘白白ト見ユレハ。為朝哀
射ヨケナル物哉。天ノ與ヘ給ヘル上ハ。只一矢
ニ射落シ捨ント思ヒ。例サキ細ノ矢ヲ打番ヒ
テ。打揚引ントシケルカ。マテシハシ。云云。此間
頗與
本書同。故畧之。ハケタル矢ヲ差ハツシ。又上矢ノ鏑ヲ
ハケ替テ。須藤九郎ニ。是ヲ見ヨ。中差ニテ下野

殿ヲ射落シ奉ラント思ヘトモ。存スル旨ア
レハ差置ナリ。劔ヲハツケ申サテ。矢風許ヲ引
セ。膽ヲツフサセ申サントテ。拳高ニ差上。鏑ノ
上マテ引懸テ發サレタリ。御所中ノ陣ノ内響
渡テ。義朝ノ盔ノ星七八射削テ。遙人後ナル寶
莊嚴院ノ門ノ扉ノ厚サ五六寸許アルヲカナ
物加ヘテ。篋中過テツ立タリケル。鏑ハワレテ
ハラリト落。兵共是ヲ見テ。身ヲ縮メテ膽ヲ消。
下野守。目モ昏心モ亂テ。既ニ馬ヨリ落ヘカリ

ケルカ。鞍ノ前輪ヲ強ク押へ。鎧ヲ踏シツメテ
弓杖ツキ。内兜ヲ探リマハスニ。血モ流レス劊
モナシ。八郎ハ聞シニモ似又矢哉。サスカ義朝
程ノ敵ヲ角ハ射ニスル物カ。此チヤウニチハ。
八龍ノ裏カ、セン事ハヨモ叶ハレト打笑へ
ハ。為朝ケン候一ノ矢ニ於チハ。旁存スル仔細
ニテ。ワサト仕候ハテ。式代申ニテ候。御鎧ヲハ
八龍ト見申テ候。譬如何成御鎧ニテモ候へ。二
ノ矢ニ於テハ申請ニスルニ候。矢坪ヲ指テ承

ル候ハシ。真向御頸ノ骨ハ恐モ候クツケイ。弦
ハシリ障子ノ板脇立ノ上。爰ヲ射ヨト承テ一
矢仕候ハシ。御前ノ雜人ヲ除ラレ候ヘトテ。件
ノチキ細打番ニ。手クス子引テツ控へタル。下
野守。矢風ハ以ノ外ケハシフ。劊ノツカヌコソ
不思議ナレ。此者ハ一定今度ハ助ケ置ジト思
ハレケレハ。聞ヌ様ニモテナシテ。寶莊嚴院ノ
脇へ引退。武藏相摸ノ者トモ。懸出軍セヨヤト
ソ下知セラレケル。此下大場事又大異。別出下可并見。

相摸國住人大庭平太景能。同三郎景親。真前ニ進
テ申ケルハ。八幡殿。後三年ノ合戦ニ。出羽國金澤
城ヲ攻給ヒシ時。十六歳ニシテ軍ノ真前懸鳥海
三郎按各案任安左眼ヲカク盪ノ鉢附ノ板ニ射附
ラレナカラ左眼。奥州後三年記作右答ノ矢ヲ射
返シテ。其敵ヲ取鎌倉權五郎景正カ末葉

奥州後三年記云。相摸國住人。鎌倉權五郎景正
ト云者アリ。先祖ヨリ聞ヘ高キ兵ナリ。年僅十
六歳ニシテ。大軍ノ前ニ在テ。命ヲ捨テ戦フ間

ニ。征矢ニテ右ノ目ヲ射サセツ。今按不載首ヲ

射貫キテ。曾ノ鉢附ノ板ニ射附ラレ又矢ヲ折カ

ケテ。答ノ矢ヲ射テ敵ヲ射取ツ。サテ後退キ歸

テ。曾ヲ脱テ。景正手負タリトテノケサマニ卧

ス。同國ノ兵三浦平太郎為次ト云者アリ。是モ

聞ヘ高キ者也。ツラヌキヲハキナカラ。景正カ

顔ヲ踏ヘテ矢ヲ拔ントス。景正卧ナカラ刀ヲ

拔テ。為次カ草摺ヲ取ヘテ。アケ様ニツカント

ス。為次驚テ。ユハ如何ナト角ハスルツト云。景

正云様。弓箭ニ中^ナテ死スルハ兵ノ望所也。争カ
 生ナカラ。足ニテツラヲ蹈ル、事ハアラン。シ
 カシ汝ヲ敵トシテ。我爰ニテ死ナント云。為次
 舌ヲマキテ云事ナシ。膝^{ヒサ}ヲカ、メ顔ヲ押ヘテ
 矢ヲ拔ツ。多ノ人は是ヲ見聞。景正カ高名彌^ミ雙^シナ
 シ。云云。

大庭平太景義同三郎

本書漏景義以下五字。今依諸本補之。

景親ト

ノ名乗タル。按系圖。景正或作景政。平景成子。而景
 成一。或作景成。子景正。景正。子景經。景經。子景忠。景
 忠。子景義。景親。或作景成。弟景村。景村。子景明。景明。

子景宗。景宗。子景義。景義。子景親。一書甚粗。御曹
 異本。説出。于下。又皆不同。不知適從。無所考證。

司是ヲ聞給ヒ。西國ノ者共ニハ。皆手ナ三ノ程ヲ
 見セタレトモ。東國ノ兵ニハ今日始ノ軍也。征矢
 ヲハ度々射タリシカ。鏑矢ニテ射ハヤト思ヒテ。
 目九ツ指タル鏑ノ。メハシラニハ角ヲ立。風返シ
 厚ククラセテ。金卷ニ朱差タルカ。普通ノ墓^{ヒキ}目^メ程
 ナルニ。手先六寸シノキヲ立テ。前一寸ニハ。三子
 ニモ办^ハヲソ附タリケル。鏑ヨリ上十五束有ケル
 ヲ取テ番ヒ。クサト引テ發サレタレハ。御所中ニ

響テ長鳴シ。五六段許ニ控ヘタル。大庭平太カ左ノ膝ヲ片手切ニフツト射切。馬ノ太腹カケス洞リケレハ。鎗ハ碎テ散ニケリ。馬ハ屏風ヲ倒ス如クカハト倒ルレハ。主ハ前ヘツアマサレケル。敵ニ首ヲ取レシト。弟ノ三郎馬ヨリ飛下。兄ヲ肩ニ引懸テ。四五町許ヲ引タリケル。

○京師本杉原本半井本並云。其時大場平太同三郎懸出名乗ケルハ。半井本云。二人元ヨリ戰疲内へ喚テ懸入。御曹司ノ前ニ控ヘテ申ケルハ云々。御先祖八幡殿後三

年ノ御合戦ニ

半井本云。金澤ノ城攻ラレシニ云々。

鳥海城

半井本作

籠ヲ落サレシ時

生年十六歳ニテ。右

半井本作左ノ

眼ヲ射サセテ。其矢ヲ拔スニテ。答ノ矢ニ敵ヲ

射テ。名ヲ後代ニ揚。今ハ神トイハレタル。鎌

倉權五郎景政ニ四代ノ末葉

四代半井本作五代不載父名大

場。莊司景房カ子。相摸國住人大場平太景義同

三郎景親トハ我等カ事ニテ候。御曹司九州ヨ

リ召具セラレ候侍共ノ中ニ。我ト思ハン人々

名乗テ御出候へ。組テ勝負ヲ決セシト云テソ

控へタル。御曹司以下至此半井本不載而云為朝サル者アリトハ風ニ聞タリサルニテハ汝等モ為朝四代相傳ノ家人トサニ候ト申云ケ。為朝須藤九郎ヲ召。此下半井本異也。出于下。誠ニ東國ニ於テハ是等コソ去者共ト聞及タレ。何レノ矢ニテカ射ニスルヲ為朝カサキ細ハ物ノ透ル事ハ珍シカラス。且ハ弓勢ノ程ヲモ見セニスルヲ。鏑ニテ割口廣ク射殺サント思フハ如何ト宣ケレハ。尤然ルヘク覺候ト申セハ。例ノ大鏑差番サツギ為朝鎮西ニ居住シテ今迄各見知サリケルコソ無念ナレ。

是コソ為朝カ手ツカラハキ拵タル矢ヨ手ナミノ程ヲ見ヨヤトテ。真先ニ進タル景義カ腰骨ホネヲ射切ント。少差サケテ推當ケル處ニ如何シタリケン。馬相ノキニノキケレハ。推モチリケル條。兎ウサギニカセウテ思フ様ニモ引レス。馬既ニキレ遠サカリケル間カナク等閑ナオサリニ發チタリ。景義カ妻手ノ膝節ヒザ片手切ニツト射切テ。鎧ノミツヲカ子。馬ノオリホ子五六枚サツトキレテ。矢ハ後へ洞リテ大地ニ立。鏑ハワレテ此

方彼方へサツト散馬ハ一働^カモ働^カカス。トウト
伏。景義下タ、トシケレトモ。膝フシ切レケ
レハ。ウツフシニ落ケリ。景親ツトヨリ。肩ニ引
懸テ出為朝馬ヲ立直^{タテマ}サントシ給ヒケル紛^マニ。
是ヲ知スシテ。矢ニモ中^マラテ逃ケルト心得テ。
不思議ノ事哉。此矢ノハツレケル事ヨ。日本ニ
冥加ノ武者ヲ尋ルニ。大場平太ニ過タル者ヨ
モアラシ。為朝物覺テヨリ以來。人馬ハ云ニ及
ハス。鳥獸ニ至ルマテ。目ニ懸タル物ヲ射ハツ

シ、事イマタナシ。此馬ノ中^マリ様ヲ見ルニ主
ハヨモ死ナシ。彼者共ハ東國ニ於テモ目恥敷
者ソカシ。只今ノ矢ヲ射損ヌル事。定テ人々ニ
語ラニ事。無念口惜キ事哉。トツフヤキ給ヒケ
リ。景親ハ景義ヲ置ントテ。傍^{カサ}ノ小家ノ戸ヲ敲^タ
ケトモアケス。カナクシテ爰ニヤ置マシ。彼ニ
ヤ捨マシトシケルヲ。景義助ケハ能助ケヨト
云間。河原マテ出。トアル小家ニ押入テ下^オシ置。
我身ハ又軍ニ逢ントテ出ケルヲ。景義。景親カ

鎧ノ袖ヲ控ヘテ云様。ヤ殿。爰ハ軍場也。只今モ
兵共馳來。落人有トテ引出サン時。足カ立ハユ
ソ手合ヲモセメ。云甲斐ナキ奴原ニ。押ヘテ首
ヲ捕レン事ノ口惜サヨ。且ハ家ノ名ヲ失ヒ且
ハ弓矢ノ瑕まニテモ有ソカシ。我等カ舉動ノ様
ヲハ。下野殿モ親シカリ御覽ニツル事ナレハ。臆病
ニテ出ヌトハヨモ思召レシ。能ク助給ヘト云
ケレハ。景親。此程シモ兄弟中不快也ケル間。此
京師本、説詳也。見于下言。此詞ヲ用スニテ罷出ナハ。兄ノ恨

死後マテモ殘ルヘシト思ヒケレハ。實モ御理
也。他人ハ誰カ助申ヘキ。サラハ餘所ヘツレ參
候ヘシトテ。又搔負テツ出ニケル。京白河モ合
戰ノ最中ニテ。置ヘキ所モナケレハ。山科ノ邊
ニ。トアル在家ヘツレ行テ預置。則走歸テ。其夜
ノ軍ニ逢ケルヲ。譽ホ又人コソナカリケレ。云云。
○半井本云。為朝。家季ヲ招。坂東ノ者ニ手ナシ見
スル事ハ是カ始ソ。征矢トカリ矢ノ物ヲ徹ス
ハ常ノ事也。キヤツ原ヲ墓目ニテ射ハヤト思

フハ如何。左候ナント申。征矢ヲモ能羽ニテハ
ハカサリケリ。増テ野矢ハ。晴ノアラハコソ能
羽ニテモハカメ。夜晝朝夕ノ狩ナレハ。昨日ハ
イタルハ。今日ノ狩ニ射損ス。今日ハ夕矢ハ明
日狩ノ料。常ノ狩ナレハ。篋モ羽モコラヘサリ
ケレハ。鶏ノ羽モ鳥ノ羽モ。ハキ附クハキケル
カ。京へ上リテ後。軍アルヘント聞テ。鏑ノ射々
キ事モコソアレ。野矢一腰尋常ニハクト云條
例ノ三年竹ノ節（近チカ）近ナルヲ節計コソケテ洗モ

セス。結構シタル條。鶴ノ下白ヲ。藤ハキニソハ
キタリケル。鏑ハ朴（ハシキ）ノ生木ヲ。一昨日切寄タル
ヲカ井ソイテ。手々ニクレトテクラセタル。人
ノ暮目ト云ヨリモ猶八寸長ク。大ニ目九サシ
テ。目柱ニハ角ヲソシケル。カ子巻ニ際一ハケ。
夜部指タルカ能モヒ又ニ。手サキ六寸。口六寸。
ナイハ八寸ノ大鴈股（カウ）ヲ子チスケテ。ミチニモ
能程刃ヲ附タレハ。小キ手鉾（テギ）ヲニツ打違ヘタ
ル様也。筈ヨリ下ナカラヨリ上。十束子タケニ。

鎬ノ上へカラト引懸テ。腰ノ骨射切ト。ヒヤウ
ト放タリケレハ。長鳴ニテ御所中ヲ響ク。五六
段許ニ控ヘタル景義カ。膝節ヲ片手切ニ射切。
鎧ノカ革カミツヲ皮。馬ノ折骨ニツヲ射切。馬ノ
腹ヲアチタヘ徹リテ。門柱ニソ立ニケル。鎬ハ
此方ニ碎ケ散。馬ハ一足モ引ヌ。トウト倒。主モ
下リ立ニトシケルカ。足折テ起レサリケル處
ニ。内ヨリ首取トテ敵寄合。大庭三郎生年二十
五。兄カ馬ニ敷レテ卧タルヲ見テ。走寄。馬ヲ押

除。兄ヲ引立ケレハ。片膝折タリ。肩ニ引懸門ヨ
リ外ニ出。河原ヲ下リニ五六町引。河原ニ下テ
見返タレハ。敵追モ來サリケリ。下人一人モ見
ヘ合ス。景親歸テ軍セント申セハ。景義弟カ鎧
ノ袖ニ取附。是迄助タルニ扶遂タヨカシトテ。御
曹司射給タル鎬モ雁股モ。指揚テ見セタリ。物
具剥トテ者カ寄タランニモ。足カアラハコソ
戰ハメ。物具モ剥レ。首モ取レナンス。守殿モ不
覺ニテ逝タリトハヨモ宣ハシ。矢面ニ立テ軍

シツルモ。景義カ手負ツルモ見給ツラシ。助ケ
ントテ肩ニ懸テ行トゴソ見給ツラメ。臆病也
トハヨモ宜ハシト云ケレハ。カ及ハス。景親兄
ヲ肩ニ懸京ノ方へ行ントスルモ。落人トテ打
伏ラレナント思ヒ。白河邊ニ宿サント思ヘト
モ。サル所モナケレハ。物具ニ就^{ツキ}テ盗人アリト
思ヒ。兄カ鎧モ重代也。我鎧モ命ニ替テ思ヒケ
レハ。二領ノ鎧重^{カキ}著テ。兄カ命モ惜ケレハ。肩ニ
懸テ。大炊御門川原ヨリシテ。二所ニゴソ休ス

レ。山階ニ。下野殿ノ所領ナリケル所ニ置。歸テ
又其日ノ軍ニハ逢ニケリ。ハ郎ハ敵射落シテ。
アシタリト思テ申ケルハ。日本國ニ算加武者
ヲ尋ニハ。景義ニシカシ。為朝ソコハクノ者ヲ
射ツレトモ。弓手ノ者ノ矢比ナルヲ。是程ニ射
ハツシタル事コソ覺子。頭ニモアレ。トコニモ
射懸ヨ。裏カ、又事ハアラシト思ヒタレハ。遙^{ハシ}
ニ下テ。膝口ノ程ヲ射ツルト覺ユル。馬ノ死様
ニハ。主ハヨモ死セシトヲ宣ケル。云云。

○京師本云。兄弟中不快ナリケル間。今コソ落合
處ヨト思ヒケレハ。殿ハ景親ヲハ。サセル答^{コタ}ア
ヤマリモナケレトモ。不忠ノ者ソトテ。常ハフ
レニシ給ヘトモ。實ノ時ハ景親コソ。カ、ルセ
ンユモ逢奉レ。他人ハ誰カ助ケ奉ルヘキ。明暮
コメ見セ給ヒツル事ハ如何。懲^{コラ}給ヒヌト云ケ
レハ。景義オメくと成テ。ヨレヤ殿。日^ヒ來^{ヨク}ハトモ
アレカクモアレ。自今以後。和殿ニ過タル奉公
ノ人ヤハアルヘキ。何事也ト云トモ。宣フニコ

ソ從ハメト怠狀ヲシケレハ。サラハトテ又強
負テ出ニケリ。ソモ京中ニ置ント思ヘトモ。落
人カトテ打ヤ殺サレシ。白川ニヤオカニシト
思ヘトモ。物具ニ目ヲ懸テ。盗人ヤ打伏ニスラ
ントモ思ヒ。又兄カ鎧モ重代也。我著タル玉相
傳ノ鎧也。命ニカヘテモ惜ク思ヒ。是ヲヌケト
イハニモ心モトナシ。兄モ弟モ鎧着ナカラ。大
炊御門ヨリ。山科ニテ行ケルニ。木幡山ニテ只
二箇所ニソ休ケル。サウナク行着テ。或者ノ許

二預置。即走歸其夜ノ戰ニ逢ケリ。云云。

○東鑑建久二年八月一日條云。大庭平太景能於新造御亭獻盃酒云云。景能語保元合戰事。此間申云。勇士之可用意者。武具也。就中可縮用者。弓箭寸尺也。鎮西八郎者。吾朝無雙。弓矢達者也。然而案弓箭寸法。過于其涯分歟。其故者。於大炊御門河原。景能逢于八男弓手。八男欲引弓。景能潛以為貴客者。自鎮西出給之間。騎馬之時。弓聊不在心歟。景能於東國能馴馬也者。則馳廻八男。妻

手之時。絆相違。及于越弓之下。可中于身之矢中。

勝訖不及此。故實者。忽可失命歟。勇士只可達騎馬事也。壯士等可留耳底。老翁之說。莫嘲哂云云。常胤已下當座皆甘心。又蒙御感仰云云。

武藏國住人豐嶋四郎。首藤九郎。半井本作惡七別當。而無九太

郎。鬼田。二弓手ノ太股ヲ射サセ。安房國住人丸太

郎。鬼田。與三ニ脇立射サセテ引退。半井本云。武

中條新五。新六。成田太郎。箱田次郎。奈良三郎。岩上

太郎。別府次郎。奈良以下至此。半井本不載。而云太

七別當ニ馬ノ腹射
玉井三郎以下入替入替攻戰

各分捕シ皆手負テ引退ク處ニ黑葦威ノ鎧高角

打タル兎ヲ著糟毛ナル馬ニ乘惡七別當ト名乘

テ懸出夕リ玉井三郎以下海老名源八馳合テ戰

ケルカ草摺ノハツレヲ射サセテヒルム所ヲ半

本云相模國住人海老名源八八首藤九郎ニテ手

ノ腕當ノ餘リヲ射ラレ馬ヨリ落テ即等ニ昇レ

不載此下齋藤一節齋藤別當透間モテ夕懸寄夕

リ惡七別當太刀ヲ拔テ齋藤カ兎ノ鉢ヲ丁ト打

ウタレナカラ實盛内兎ヘキツカキ上リニ打込

ケレハ誤タヌ惡七別當カ首ハ前ニツ落夕リケ

ル實盛此首ヲ取テ太刀ノサキニ貫キ指擧テ利

仁將軍鎮守府將軍十七代後胤按以實盛為利仁

矣據系圖諸本利仁子叙用其子吉信其子伊傳其

子則光其子則重其子助宗其子實遠其子實直其

子實盛自利仁凡九世也或叙用子無吉武藏國住

信直以伊傳作叙用子為八世未詳孰是人齋藤別當實盛生年三十一軍ヲ八角コソスレ

我ト思ハン人々ハ寄合ヤ寄合ヤトツ呼リケル

武藏人豐嶋以下京金子十郎ハ滋目結ノ直垂ニ

師本杉原本並無楯繩目ノ鎧著テ鹿毛ナル馬ニ累鞍置テ乘タル

武藏國志 卷二

カ。矢種ハ皆射盡シテ。太刀ヲ拔テ真甲ニアテ。武
藏國住人金子十郎家忠十九歳軍ハ今日ソ始テ
ル。御曹司ノ御内ニ。我ト思ハン兵ハ。出アヘヤト
ソ名乗タル。八郎宣ケルハ。惡ヒ剛者哉。我矢比ニ
寄テ扣ヘタリ。只一矢ニ射落サント思ヘ共。餘リ
ニ優シケレハ。誰カアルアレ提テ參レ。一目見シ
トアリシカハ。木蘭地ノ直垂ニ。紫葦腹巻箸栗毛
ナル馬ニ乗。高間四郎ト名乗テ。押雙テ組テ落。高
間ハ。兄弟共ニ聞ユル大カナルヲ。家忠上ニ成テ。

押ヘテ首ヲカ、ントスル處ニ。高間三郎落重テ。
弟ヲ討セシト。金子カ兜ヲ引仰ケ。首ヲカ、ント
シケルヲ。下ナル敵ノ左右ノ手ヲ。膝ニテ敷ツメ。
上ナル敵ノ弓手ノ草摺引揚寄返テ。柄モ拳モ徹
レ徹レト三刀指テ。ヒルム所ニ下ナル敵ノ首ヲ
取。太刀ノサキニ差揚テ。此比鬼神ト聞ヘ給フ。筑
紫御曹司ノ御前ニテ。高間四郎兄弟ヲハ。家忠討
取タリトソ呼リケル。家未是ヲ見テ。安カラス思
ヒケレハ。射落サントテ追懸ケル處ヲ。八郎。イカ

ニ首藤アタラ兵ヲ助テクケ。今度ノ軍ニ打勝テ
ハ。為朝為朝。本文作義。今依諸本改之。カ郎等ニセニスルツト

コソ宣ケレ。金子餘ニ剛ナレハ。軍神ニヤ守ラレ

ケン。又無キ高名仕極テ。不思議命助リテ。大將迄

ツ譽ラレケル。以上金子家忠一節京師杉原半井本有異。見于下。

○京師本杉原本半井本竝云。武藏國住人金子十

郎家忠。葦毛ナル馬ニ乗。黒皮威鎧著テ。紅ノ纒ハ

ツ懸タリケル。葦毛云云至此。半井本不載。生年十九歳。軍

ニ逢事ハ是ヲ初ナルトテ。京師本半井本云。子ハ肩ニカケ云々。

太刀ヲ拔額ニアテ。為朝ノ陣中へ喚テ懸入。散

散ニ切テ廻ル。為朝是ヲ見テ。哀奴ハ大剛者哉。

爰ニテ彼ヲ射落シ。打捕タリトモ。多勢カ捕籠

テ討タリトコソ云ニスレ。誰ニテモ馳出。敵ノ

見ン所ニテ。此者ヲ捕へ提テ參レト宣ケレハ。

高間四郎ト云者。陣中ヲ一町ハカリ馳又ケ。推

雙組テ落ツ。高間ハ三十餘。大ノ男シタ、カ者

半井本云。大カ。ナリ。金子ハ十九也。サレトモ暫ク組合

ケルカ。如何ニタリケン。高間オメオメト下ニ

ナル。金子上ニ乗居テ。左右ノ袖ヲムスト踏ヘ
 テ働カサス。首ヲ捕ントスル處ニ。兄ノ高間三
 郎急キ馳來リ。半井本云。金子是ヲ見テ。急キ首
 ヲハ取ス。高間三郎ヲ待懸
云々。馬ヨリ飛テ下リ。後ヨリツト寄。半井本。無
 馬以下句。
 金子カ墮ノテヘニ手ヲ入。引仰ケテ首ヲ捕
 ントスル處ニ。半井本云。首ノ骨強
 クテ働カス。云々。金子拔テ持
 タル刀ナレハ。下ナル四郎カト、メヲ差カヘ
 ス刀ニテ。下ナル云々。半井本。無。三郎カ具足ノ草摺ノハ
 ツレヨリ。京師本云。子手ノ
 草摺ヲ引寄。云々。上サマニ三刀刺テ。

上イヤツトツキノケタリ。大事ノ手ナレハ。矢
 庭ニ二人ナカラ空シクナル。京師本云。大事ノ
 手ナレハ。ノケサ
 ヲニ倒レヌ。金子ツト立テ。起モ上ラセヌ首ヲ
 取。四郎ハ元ヨリト、メヲ刺レテ働カサリケ
 ルヲ。心静ニ首ヲ取。二人ノ首ヲ提ケ。云々。半井
 本云。三郎カ弓手ノ草摺。揚アケサマニ三刀
 刺ス。轡レテノケニ倒レヌ。金子。四郎カ首ヲ取。
 一人ニ手負セ死生ハ知ス一人ノ首ヲ取。云々。
 金子馬引寄打騎。半井本云。左ノ手
 二首指上テ。云々。大音揚テ。
 家忠音ニ聞ヘ給フ御曹司ノ御前ニテ。宗徒ノ
 侍二人打捕罷出候。敵モ味方モ是ヲ見ヨ。半井
 本云。
 未代ノ弓取家忠ヲ例ニヒケヤ和殿原トテモ
 生ヘキ身ナラハユソ。急キタリトモ甲斐アラ

シトテ心静ニ出ケルヲ。首藤九郎云々。此下又異。出于下。昔モ今モタメシ

少ユソ候ラヌ。斯ル晴ノ軍ニシホセテ。後代ニ

名ヲ揚ニスル京師本云。各ヲ揚ニスル家忠ヲ。但高各ヲシタレハトテ急キハ

出ニシ。御曹司武運ノ程コソ有難ク候ヘ定テ

無念ニ人々思召候ヘシ。御曹司ノ御内ニ我ト

思ハン人々懸出押竝テ組ヤ組ヤト訂リテ控

ヘタリ。首藤九郎半井本云。首藤九郎能引テ射落サントシケルヲ為朝矢サ

キヲ寒キナ射ソ家季千騎萬騎ノ中ニモカ、

ル兵ハ有カタシ。為朝多ノ兵見ツレトモイニ

タ見ス。彼一人討タリトモ。軍ノ勝負安カラヌ

アルヘキカ。此軍ニ打勝テ云々。下同。

事哉。高間兄弟打セヌルコソ無念ナレキヤツ
手捕ニ仕リ。中ニ提ケ參候ハントテ打出ルヲ。
為朝暫待候ヘ。此者一人打タレハトテ軍ノ勝
負アルヘキカ。例ノサキ細一ツテコソアラニ
スレ。射落サニ事ハ安ケレ共。是程ノ剛者ヲ。ア
ヘナク失ハン事情ナカルヘシ。其上為朝。此軍
ニ討勝ハ箇國ヲ管領セシ時。只今ノ不義ヲ赦
シテ召使ハニスル也。惜キ兵アタラ侍討ヘカ
ラストテ押止ラル。云云。

常陸國住人。中宮三郎。同國住人。關次郎。村山黨ニ
ハ。山口六郎。仙波七郎。響ヒビヲ雙フタテ懸入レハ。三町礮ツツ
紀平次大夫。大矢新三郎以下防キケルカ。新三郎
ハ。仙波七郎ニ弓手ノ肩ヲキラレ。紀平次大夫ハ。
山口六郎ニ右ノ腕ウデ打落サレテ引返ス。美濃國住
人平野平太。同國住人吉野太郎ト名乗テ懸入ケ
ル所ヲ御曹司件ノ大鎬ウツヲ以テニヤウト射給フ
カ。高紐ニ弦ヤセカレケシ。思フ矢坪ニ下リツ、
平野平太カ左ノ脇ウデ當アヲ射キラレテ。馬ノ太腹ウデア

ナタヘツト射通サルレハ。真逆ニ倒レタリ。甲斐
國住人鹽見五郎モ射殺サレ奉リケレハ。大將モ
此等ヲ見給ヒテ。少攻アムンテヲ思ハレケル。
人中宮以下至此。京師杉原
半井本有異同。別出。于左。
○半井本云。金子黨ニ續ク者共。山口六郎。仙波七
郎也。御曹司ノ方ヨリハ。三町礮。紀平次大夫。大
矢新三郎。二人續キ落合テ切合ケリ。紀平次大
夫ハ。山口六郎ニ。妻手ノ肩ヲキラレテ逃ニケ
リ。新三郎ハ。仙波七郎ニ弓手ノ腕ヲキラレテ

徳川實錄卷之...

退ニケリ。南風一筋吹來テ。門ノ扉ヲ吹明タレ
ハ。敵ノ懸出ルツトテ。下野守ノ兵トモ。左右ヘ
サツトツ逃タリケル。常陸國住人關次郎俊平
計。片手矢注テ立タリ。臆病ノ殿原哉。風ニテア
ル者ヲト云ケレハ。各笑テ寄タリケリ。常陸國
住人。中藏三郎押寄。太事ノ手負テツノキニケ
ル。甲斐國住人。鹽見五郎。同六郎。嚮ヲ並テ寄ル
ニ。御曹司ノ發ツ矢ニ。鹽見六郎。首ノ骨ヲ後ノ
シコロヘ射抜レテノケニ落。關次郎是ヲ見テ

馬ヨリ下リ。云云。此下。與京師本同。

○京師本杉原本並云。常陸國住人關次郎。甲斐國
住人鹽見五郎。同六郎。嚮ヲ並テ懸出タリ。今度
為朝例ノサキ細打番ニ。真先ニ進タル鹽見五
郎カ。首ノ骨ヲ射切ニト差當發チタリ。鹽見キ
ツト見テ。矢ニ違ハニト首ヲ振ノケタレトモ。
ナシカハハツルヘキ。矢所米コソ少上リタレ共。
毘ノ鉢附ノ板ヲ。左ヨリ右ヘカセニツト射抜
レ。真逆ニ落ケレハ。手捕與一京師本作與ニ。ヲ
與前可并見

リ合、首ヲ搔切、矢ヲハ拔スシテ、首ト墮ヲ矢ニ
テ荷^テヒ。打カツキテワ出キタル、為朝打返シ打
返シ見テ、我弓勢ノ程ヲ愛シケル。關二郎是
ヲ見テ、シタ、カ者ナレハ、馬ヨリ下リ。京師本
云、馬ヲ
押倒シ、我馬ノ腹射サセタルヲヤトテ逃ニケ
リ。云云。

其時信濃國住人、根井大彌太、藍搦直垂ニ、卯花威
鎧ニ、星白ノ兜ヲ著、佐目ナル馬ニ乗タルカ、進出
テ申ケルハ、軍ニ人ノ討ルハトテ、敵一息ヲ繼セ

ニハ、イツカ勝負ヲ決スヘキ、其上我等ハ餌ヲ
求ル鷹ノ如シ、凶徒ハ鷹ニ恐ル、雉ニアラスヤ、イ
サヤ懸一殿原トテ、真先ニ進メハ、續ク兵誰々ツ。
同國住人、宇野太郎按、宇野蓋、
海野之訛、望月三郎、諏訪平五、
進藤武者、桑原安藤次、安藤三、木曾中太、彌中太、根
津、神平、志妻、小次郎、熊坂四郎ヲ始トシテ、二十七
騎ヲ懸タリケル。閉ノ中へ攻入テ、散ケニ戦ケレ
ハ、手取、與次、鬼田、與三、松浦、小次郎モ討レニケリ。
都テ為朝ノ憑思ハレタル二十八騎ノ兵、二十三

人討レテ。大畧手ヲソ負タリケル。寄手モ究竟ノ
兵五十三騎討レテ。七十餘人手負タリ。敵魚鱗ニ
懸破ニトスレハ。御方鶴翼ニ連リテ射セラカ
ス。御方陽ニ開テ圍ニトスレトモ。敵陰ニ開テ圍
マレス。黃石公カ傳ル處。吳子孫子カ秘スル處。互
ニ知タル道ナレハ。敵モチラス。御方モヒカス。サ
レハ千騎カ十騎ニ成迄モ。果ヘキ軍トモ見ヘサ
リケリ。兵庫頭頼政ノ手ニモ。渡邊黨ニ省授連源
太。競瀧口ヲ始トシテ。東ノ門ヘ押寄テ。搦ニ搦テ

攻入ハ。平馬助忠正。多田藏人大夫頼憲。爰ヲ先途
ト防戦フ。西門ヲハ。六條判官為義。張縮ノ直垂ニ。
薄金ト云緋威鎧ニ。鍬形打タル兜ヲ著。連錢葦毛
ナル馬ニ。白覆輪鞍置テソ乘レタル。五人ノ子共
前後ニ立テ懸出タル體。哀大將軍ヤトク見ヘタ
リケル。其外自餘ノ陣々ニモ。互ニ入亂テ。追ツ返
ツ戦ケレトモ。イマ夕勝負ヲナカリケル。信濃人
根井以
下至此。京師杉原半
井本各異。別出于下。

○半井本云。信濃國住人。薄田近藤武者。桑原安藤

次。安藤三。各手負テ引退。木曾中太。彌中太モ。大
事ノ手負テノキニケリ。根津新平。根井大野太
モ手負ニケリ。志妻小次郎押寄テ。惡七別當ニ
胸板射ラレテ馬ヨリ落下野守ノ手武者共ノ
面ニ立テ軍スル者。五十一人討レニケリ。大事
ノ手負八十餘人。薄手負ハ註ニ及ハス。下野守
郎等多ク討セテ引テ出。西ノ門ヲ攻。為義判官
父子六人大將ニテ。命モ惜マズ禦ケレハ。此門
又輒ク落ヘキ様モテシ。東門ハ。平馬助父子五

人。多田頼憲カ防ク處ヲ。頼政カ渡邊黨ヲ先ト
シテ攻レトモ。打破テモ入ラス。流石ニ追モ返
サレス。北ノ春日面ヲハ。左衛門大夫家弘カ弟
ヤ子共相具シテ固タルニ。安藝守ソナタヘ向
フカ。イニ夕寄モ附ス。凡門々ニハ墓目ノ音。矢
叫ノ音隙モナシ。時ヲ移ス程ニ。アナタコナタ
ニ死スル者數ヲ知ス。寅時ニ始タル合戰。卯時
ノ終ニ成迄。何レコソ弱ケレトモ見ヘス。輒ク
攻落シカタクソ見ヘケル。云云。

○京師本杉原本竝云。其次ニ信濃國住人根井大
 彌太進出軍ノ陣ヲハ破軍星ノ者コソ破ルナ
 レノケノケ殿原。此門ヲ打破ラントテ懸入所
 ニ。須藤九郎能引テ發ツ矢ニ。胸板射サセテ落
 ニケリ。根津神平懸出タリ。紀平次大夫組ニト
 相近ツク所ヲ。神平能引テ射。鎧ノ引合ヲ筆震子
 ニ射ラレテ落。木曾中太。彌中太。トメ矢。源太。大
 矢新三郎。互ニ入替入替散々ニ戰ヒ。各手負テ
 引退。桑原安藤次カケ出タリ。惡七別當クツケ

イ射サセテ落ニケリ。是等ヲ始トシテ。義朝ニ
 相從フ兵共。我モ我モト入替入替。時移テテ戰
 ケリ。矢場ニ討ル者五十三人。創ヲ被ル者二
 百餘人トソ聞ヘシ。為朝ノ方ニハ。紀平次大夫
 ト。新三郎カ大事ノ手負タルト。高間兄弟討レ
 タル外ハ。薄手ヲタニモ負サリケリ。爰ニ河原
 面ヲ固カタル。頼賢。頼仲。三十騎許ヲ相具シテ。京師
 本云。為朝ノ固テ射合切合戰ケル。大義朝ノ大
 炊御門西ノ門ヲカケヨケテ云云。
 勢ノ中へ切テ入。鉄手ク十文字ニ懸ツ返シツ。一

後醍醐天皇御記 卷三

六十六

モ三揉テ攻戦フ。義朝安カラス思テ。頼賢頼仲
ナラハ。餘スナ洩スナ討捕ヤトテ。真中ニ追捕
籠ントスレハ。手ニモタマラス切テ廻リ。敵餘
多討捕。御方ノ兵モ少ケ手負テ。懸破テ本ノ陣
ヘク歸ケル。八郎是ヲ見テ。怒テ申サレケルハ。
何トモ思ヒ奉ラヌ舍兒ノ人々ニ。先ヲセラレ
ツルコソ安カラ子トテ。太刀拔持ノケ堦ニ成
テ喚テカク。義朝是ヲ見給ヒテ。叶ハシトヤ思
ハレケシ。引ワラシ河原ヲ向ヘ懸渡ル。為朝彌

怒ヲナシテ。彼陣ヘ懸入。此勢ニ懸合。切テハ落
シ切テハステ。喚叫テ馳廻レハ。二三町力内ニ
ハ敵一人モナカリケリ。為朝合戦ニシカツテ
控ヘタレトモ。近ク者モナキ上。馬疲ケレハ。静
静ト引返シテ。本ノ門京師本云。本ノ門ニ打立
テ。サシツメサシツメ射
ケルニ。矢ニソ休マレケル。總シテ為朝合戦ノ
勢ハ。矢一筋ニテ二人死ヌル事ハアレトモ。一
人トシテ矢ニ中ルモノ射落サレ死セヌ者ハ
ナシ。打物取テモ究竟ノ上手ナレハ。近ツク程

義朝傳

三三

ノ敵ヲ切テ落サヌハナシ。頼政東門へ押寄。云

云。此間。杉原本。與本書同。京師本云。頼政東ノ門

判官父子防キケル間。入替入替戰。春日面ヲハ。

家弘光弘以下手痛ク防キケル間。寄手ノ兵引

退。寅刻ヨリ合戰。漸夜明日出ケル比ハ。寄手負

色ニ見ヘシカハ。為朝ヲ始トシテ。院方ノ兵勝

ニ乘テク攻戰ケル。義朝清盛色ヲ失ヒ引退テ。

所々ニ控ヘタリ。云云。

其時義朝使者ヲ内裏へ進ラセテ。

○京師本杉原本竝云。義朝使者ヲ内裏へ進ラセ。

官軍敕命ヲ重シ。命ヲ輕シテ攻戰ノ事。既ニ數

刻ニ及トイヘトモ。逆徒誠ニ強クシテ。命ヲ失

ヒ創ヲ被ル者數ヲ知ス。偏伍陣破テ。敗北ノ蹄

轟キナントス。義朝頗ニ戰士ヲ勇。一陣ニ進ム

トイヘ共。殘黨ツ、カサル間。今ニ攻落。難。今

ハ火ヲ懸サラシ外ハ。云々。下同。

夜中ニ勝負ヲ決セント。揉ニ揉テ攻候ヘトモ。敵モ

堅ク防テ破リ難ク候。今ハ火ヲ懸サラシ外ハ。利有

ヘシトモ覺候ハス。但法勝寺ナトモ風下ニテ候
ヘハ。伽藍ノ滅亡ニヤ及候ハンスラン。其段敷定
ニ隨フヘシト申上ラレタリシカハ。少納言入道
承テ。義朝誠ニ神妙也。神妙。京師杉原但君君ニテ
渡ラセ給ハ。法勝寺程ノ伽藍ヲハ。即時ニ建立
セラルヘシ。努努ヌヌソレニ恐ヘカラス。只急速ニ凶
徒誅戮ノ謀ヲ廻スヘシト仰下サレケレハ。御所
ヨリ西半井本ナル藤中納言家成卿參議家宿所
ニ火ヲ懸シカハ。西風烈分ニキ折節ニテハアリ。即

院御所へ猛火夥オホクシク吹懸タレハ
中、上臈女房乳母童ハ。方角ヲ失テ。呼叫ヨウテ迷アヘ
ルニ。武士モ是カ足手纏マヒニテ。進退更ニ自在ナラ
ス。落行人ノ有様ハ。峯嵐ニサツハル。冬、木葉異
ナラス。京師杉原本並云。門ヲ固タル兵。烟ニ囁テ
防戰防ハ共。門レケリ。判官父子。為朝ヲ始。四方ヲ馳廻
子ヲ散ス如クニ成。云云。

天竺山七切書

